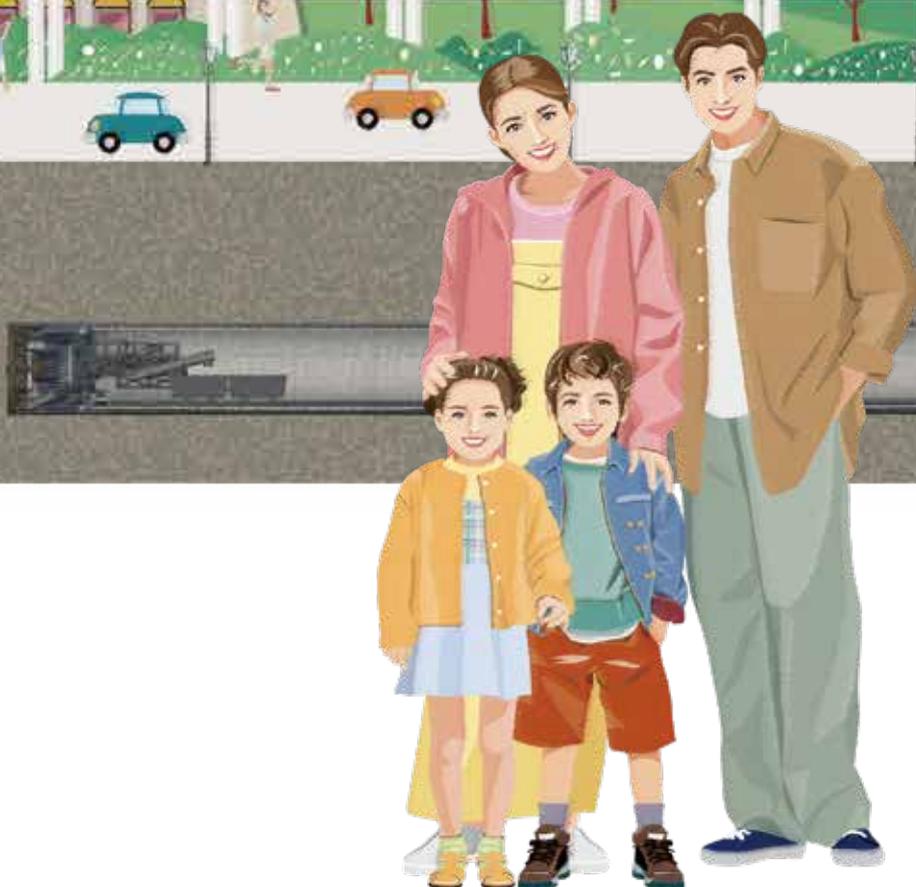


人と地球の架け橋に

# 竹中土木コーポレートレポート

Corporate Report 2020



わが国で唯一の土木専門ゼネコンとして…  
 強靱な国土や環境共生の社会基盤の構築に向けて取り組む  
 当社の事業活動をステークホルダーの皆様にお伝えします。

#### ■編集方針

「竹中土木コーポレートレポート」は  
 会社案内(事業概要紹介)とサステナビリティレポート(CSR活動報告)を統合し  
 当社並びに竹中グループのCSRビジョンを示すとともに  
 当社の事業活動全体をステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的に発行しています。  
 誌面の都合で掲載できないコンテンツや事例、データについては竹中土木WEBサイトに掲載しています。

## contents

<b>竹中土木について</b>	
トップメッセージ	4
会社/グループ概要	6
竹中土木のあゆみ	8
グループ成長戦略と竹中土木のビジョン	10
<b>特集</b>	
Feature-1 働き方を変える「生産性革新」	12
Feature-2 未来へつなぐ「働き方改革」	14
<b>事業活動</b>	
国土を支える「地盤改良」	16
社会をつなぐ「交通インフラ」	18
暮らしを守る「治水・利水」	20
クリーンエネルギー&環境整備	22
土地活用&インフラ補強	24
地下インフラ&土壌汚染対策	26
海外プロジェクト	28
未来を拓く「技術開発」	30
ニーズに応える「設計&技術提案」	32
事業活動を支える「管理部門」	33
<b>CSR活動/ステークホルダーとともに</b>	
CSRビジョン/ステークホルダーの皆様とともに未来へつなぐ	34
地球環境を守る/美しい地球を未来の子供たちに遺す	36
地域社会に貢献する/地域社会の持続的な発展に寄与する	38
お客様のために/最良のソリューションでお客様の信頼を得つづける	40
従業員とともに/多様な人格・個性を尊重し互いに成長しつづける	42
マネジメント/公平公正な事業活動を推進・展開する	44
ステークホルダーとの対話/多様な人々とともに…	46
グループ会社/竹中道路の活動/明日へとつづく道づくり	47

<b>対象期間</b>	2019年1月～2019年12月(当該年以外の活動も一部掲載しています)
<b>対象範囲</b>	当社の活動をまとめていますが、一部(株)竹中工務店との共同活動及び、(株)竹中道路の活動も含まれています。
<b>参考ガイドライン</b>	環境省の「環境報告ガイドライン 2018年版」を参考にしました。
<b>公開</b>	2020年4月(次回公開予定:2021年4月)
<b>お問い合わせ先</b>	管理本部総務部 TEL. 03-6810-6211 FAX. 03-6660-6302 ホームページ <a href="https://www.takenaka-doboku.co.jp/">https://www.takenaka-doboku.co.jp/</a>



## 時代のニーズと社会の要請に応えつづける

当社は1941年の創立以来、時代とともに変化する社会やお客様の要請に応えながら「ものづくり」の道を堅実に歩みつづけてきました。

「創立75周年」(2016年)を機に…私たちはこれまでの歩みを振り返るとともに「将来の会社像=あるべき姿」をしっかりと見据えた「竹中土木2025年ビジョン」を策定。この4年間で躍進への礎を築き、これからも持続的に発展していくために全社員が意識を共有しながら「ビジョン実現」への歩みを加速させています。

私たち建設業は、将来にわたって「強くしなやかな国土をつくる」という使命を担っています。また、「働き方改革」や「生産性革命」など様々なイノベーションが求められています。そこで、近年の社会環境を踏まえて「国土強靱化の意識を高めた広義に亘る環境共生の社会基盤を構築していくこと」を念頭に、社会資本ストックの長寿命化やICTを活用した生産性改革などで企業価値のさらなる向上を目指し、ステークホルダーの皆様の“満足と信頼”を一層高めながら進化をつづけていきたいと考えています。

ダム・トンネル・シールド・土地造成など本業の深耕はもとより、益々要望が高まる防災・減災やリニューアブル分野の開拓に加え、東南アジアを基軸とする海外事業を一層拡充していきます。さらに、クリーンエネルギー等の新規事業にも継続的に取り組み、建設請負業の枠を越えた「新領域」への挑戦を加速させて新しい価値を創生していきます。

併せて、企業の財産である従業員の待遇改善と休日の取得促進、外国籍のグローバル社員や女性技術者の活躍の場を広げる「ダイバーシティ」への取り組み等を継続。加えて、ワークプレイスの改革や作業服の改定など多様なアプローチで「柔軟な働き方」や「生産革新」を追求…誰もが健康に安心して働ける職場環境の整備を加速させて「社員満足度の向上」を目指します。2015年9月の国連サミットでは、2030年までに達成すべき『持続可能な開発目標=SDGs』が加盟193か国によって採択されました。私たちは、竹中工務店グループの一員である誇りを胸に、事業活動のあらゆる場面で「SDGs」を積極的に推進…求められる役割を着実に遂行するとともに、豊かで安全な国民生活の追求とサステナブル社会の実現に向けて挑みつづけます。

さらに、時代の潮流を敏感に捉えて新たな分野に果敢にチャレンジすることで持続的に発展をつづけ、社会的責任を果たしながら「魅力溢れる輝く企業」へと進化していきます。

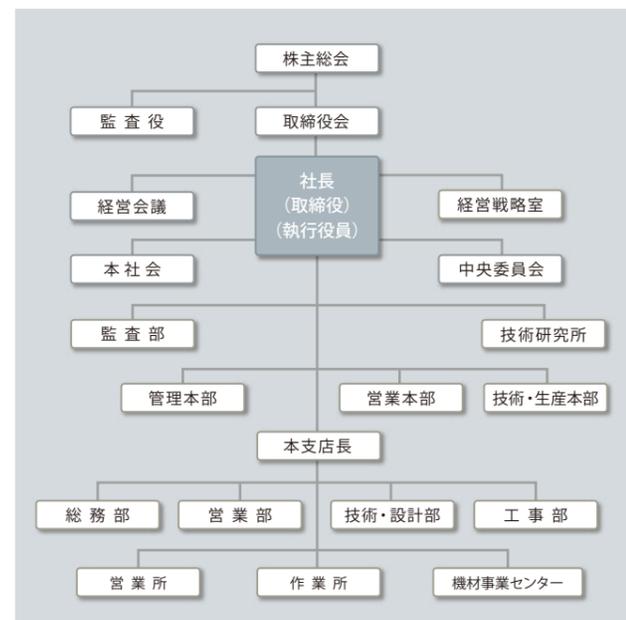
2020年1月  
取締役社長

竹中康一

会社概要

社名	株式会社 竹中土木	
本社所在地	東京都江東区新砂一丁目1番1号	
設立	1941年6月25日	
資本金	70億円 (2020年1月現在)	
売上高	959億円 (2019年度)	
受注高	1,009億円 (2019年度)	
従業員数	911名 (2020年1月現在)	
	技術系職員	680名
	事務系職員	231名
資格者数	一級土木施工管理技士	557名
	技術士	87名
	宅地建物取引士	55名
事業内容	土木工事及び建築工事の請負、設計及び監理 不動産関連業務 地域・都市・海洋開発及び環境整備事業 前各号の業務に係わるエンジニアリング、 マネジメント及びコンサルティング業務 前各号に付帯する業務	
取引銀行	三菱UFJ銀行 みずほ銀行 三井住友銀行	

組織図



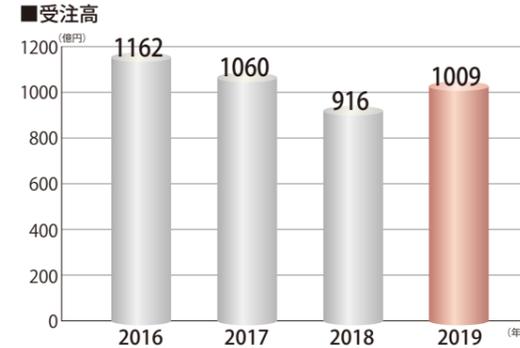
本支店・営業所一覧

- 本社 東京都江東区新砂1-1-1  
〒136-8570 ☎ 03-6810-6200
- 北海道支店 札幌市中央区大通西4-1  
〒060-0042 ☎ 011-241-6428
- 東北支店 仙台市青葉区国分町3-4-33  
〒980-0803 ☎ 022-221-7681
- 盛岡営業所 盛岡市大通1-6-19  
〒020-0022 ☎ 019-623-0234
- 福島営業所 福島市五月町10-17酪農会館401  
〒960-8061 ☎ 024-563-1421
- 東京本店 東京都江東区新砂1-1-1  
〒136-8570 ☎ 03-6810-6218
- 横浜支店 横浜市西区花咲町6-145  
〒220-0022 ☎ 045-321-3141
- 名古屋支店 名古屋市中区錦2-2-13  
〒460-0003 ☎ 052-231-2121
- 北陸営業所 福井市中央3-3-23  
〒910-0006 ☎ 0776-97-6871
- 静岡営業所 静岡市葵区追手町2-20  
〒420-0853 ☎ 054-255-9104
- 三重営業所 桑名市長島町浦安131-9  
〒511-1135 ☎ 0594-45-8216
- 大阪本店 大阪市中央区本町4-1-13  
〒541-0053 ☎ 06-6252-4081
- 四国支店 高松市西内町12-11  
〒760-0022 ☎ 087-851-8427
- 神戸営業所 神戸市中央区浜辺通2-1-17  
〒651-0083 ☎ 078-252-3355
- 京都営業所 京都市中京区壬生賀陽御所町3-1  
〒604-8811 ☎ 075-801-1760
- 滋賀営業所 滋賀県蒲生郡日野町大字奥之池559-2  
〒529-1610 ☎ 0748-53-2231
- 奈良営業所 奈良市大宮町3-4-29  
〒630-8115 ☎ 0742-36-3113
- 広島支店 広島市中区橋本町10-10  
〒730-0015 ☎ 082-222-7400
- 岡山営業所 岡山市北区田町2-1-10  
〒700-0825 ☎ 086-224-7838
- 九州支店 福岡市中央区天神4-2-20  
〒810-0001 ☎ 092-711-1831
- 熊本営業所 熊本市中央区草葉町4-22  
〒860-0843 ☎ 096-324-0329
- 沖縄営業所 那覇市銘苅3-23-24  
〒900-0004 ☎ 098-867-4594
- 国際支店 東京都江東区新砂1-1-1  
〒136-8570 ☎ 03-6810-6223
- 竹中技術研究所 千葉県印西市大塚1-5-1  
〒270-1395 ☎ 0476-47-1700

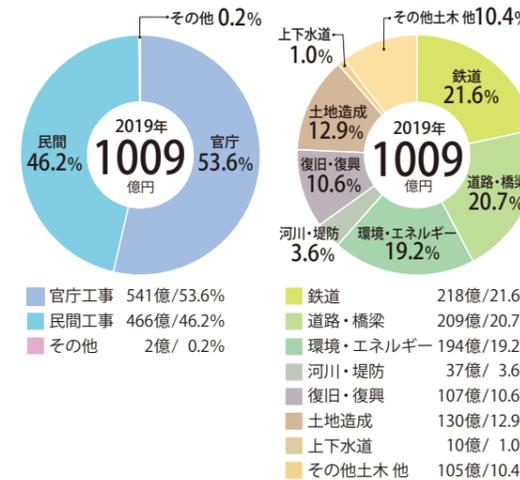
OVERSEAS OFFICE

●Philippine Branch Office  
18th Floor, Tower 2, The Enterprise Center,  
6766 Ayala Avenue cor. Paseo de Roxas, Makati City,  
1200 Philippines  
TEL : +63-(0)2-7757-4781  
FAX : +63-(0)2-7757-4786

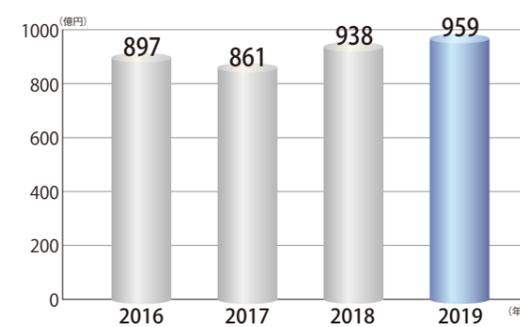
業績ハイライト



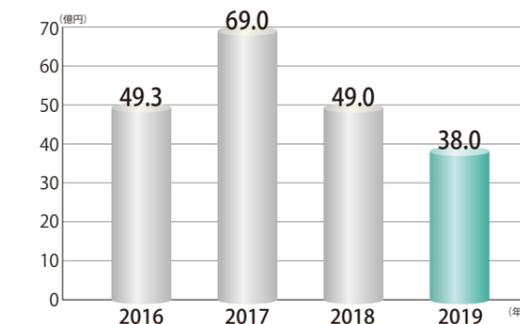
受注高構成比



売上高

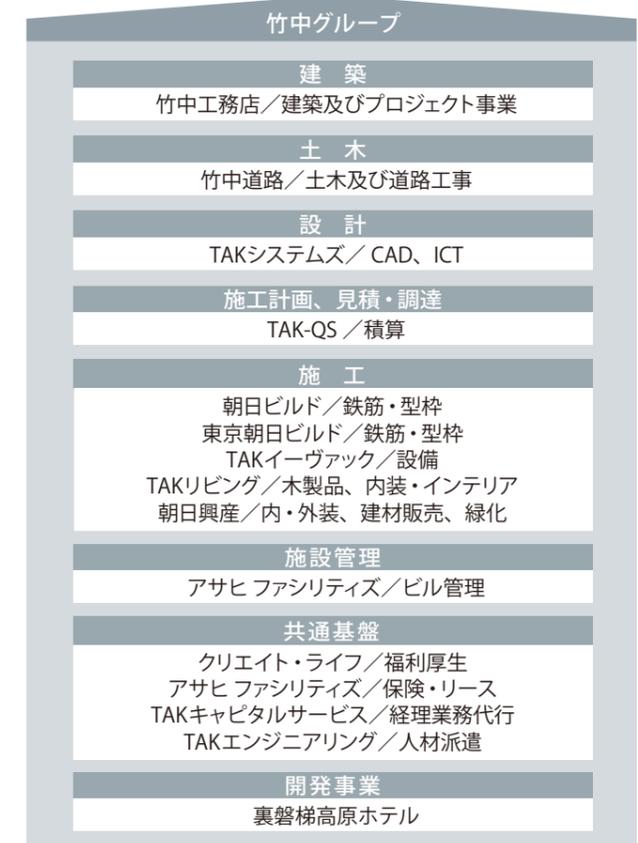


経常利益



竹中グループ〈各社の事業内容と主な活動〉

- 株式会社 竹中工務店
  - ◆建設工事の請負並びに設計及び監理、不動産の開発・取引等
- 株式会社 竹中道路
  - ◆道路舗装工事及び舗装資材の製造・販売
- 株式会社 朝日ビルド
  - ◆鉄筋工事及び型枠工事
- 株式会社 東京朝日ビルド
  - ◆鉄筋工事及び型枠工事
- 株式会社 TAKイーヴァック
  - ◆電気・給排水衛生・空調設備工事
- 株式会社 TAKリビング
  - ◆木製品の製造・販売及び内装・インテリア工事
- 株式会社 朝日興産
  - ◆内・外装工事を主とした工事、建設資材の販売、造園、植樹、緑化の企画・施工
- 株式会社 アサヒ ファシリティズ
  - ◆不動産の管理及び損害保険代理業務
- 株式会社 TAKシステムズ
  - ◆建築の設計・施工に関するCAD業務並びにコンサルティング
- 株式会社 TAKエンジニアリング
  - ◆建築工事に伴うエンジニアリング・マネジメント業務の受託、人材派遣業務、人材紹介業務
- 株式会社 TAK-QS
  - ◆建築工事に伴う積算業務の受託
- 株式会社 クリエイト・ライフ
  - ◆従業員福利厚生及び総務・人事に関する総合業務受託
- 株式会社 TAKキャピタルサービス
  - ◆グループ会社の電子債権業務並びに経理処理業務代行
- 株式会社 裏磐梯高原ホテル
  - ◆リゾートホテル及びスキー場の経営



当社のルーツは、日本の建設技術を海外で飛躍させることを目指し、1937年に竹中工務店と大手ゼネコン数社で構成された「匿名組合共栄会」です。東南アジアや中南米で多くの土木工事を施工しました。

1941年にその他ゼネコンが参加し、「海外土木興業株式会社」が設立され、初代取締役会長に当時の竹中工務店社長 竹中藤右衛門が就任しました。その後、竹中工務店が全株式を取得し、1946年に「朝日土木興業株式会社」に改称して竹中グループの土木会社となりました。(1973年 株式会社竹中土木に改称) 私たちはこれからも、竹中グループの一員としてお客様のニーズや社会の変化に柔軟に応えるソリューションの提供と作品創造を通じて、サステナブルなまちづくりに貢献しつづけたいと思っています。

## 1975

1941年 S16

・海外土木興業株式会社 設立

1946年 S21

・朝日土木興業株式会社と改称

1960年 S35

・東海道新幹線「有楽町高架」施工



1963年 S38

・小型機械化シールド掘削機完成

1965年 S40

・名古屋市「栄町共同溝工事」をわが国初の「矩形シールド工法」により施工



1973年 S48

・株式会社竹中土木と改称

1974年 S49

・モンパサ国際空港(ケニア共和国) 施工



1975年 S50

・DCM工法(深層混合処理工法)を開発

## 1985

1977年 S52

・沖縄・安波ダム施工  
・中部ジャワ道路改良工事施工(インドネシア共和国)  
・本州四国連絡橋「門崎高架橋」施工  
・「横浜港大黒埠頭岸壁基礎地盤改良工事」をDCM工法で施工



1979年 S52

・DCM専用船「第三竹中号」完成  
・DCM工法が第31回毎日工業技術賞受賞



1981年 S56

・わが国初のダムコンクリート圧送工法(PCD工法)を開発

1982年 S57

・「DCM6号船」完成

1984年 S59

・竹中式スラッシュ処理システム(TST)が業界初の環境庁長官賞を受賞  
・ジャカルタ-メラク間高速道路工事施工  
・ジャカルタ市内立体交差工事施工(インドネシア共和国)



1985年 S60

・シールド自動測量システム「ADAMS」を開発

## 1995

1986年 S61

・ジャカルタ駐在員事務所開設

1987年 S62

・ダム用自動式型枠工法を開発

1988年 S63

・新しい反力方式により推進するECL工法(PRES工法)を開発  
・中国電力柳井火力発電所 護岸工事施工



1991年 H3

・創立50周年を迎える  
・インドネシア共和国にて現地法人設立

1992年 H4

・耐震固化工法「TOFT工法」を開発  
・名阪自動車道  
名古屋インターチェンジ施工



1993年 H5

・河川浄化TRENDSシステムを開発  
・「緑化コンクリート」を開発

1994年 H6

・ジャカルタ中央鉄道高架化工事施工(インドネシア共和国)

1995年 H7

・阪神淡路大震災で「TOFT工法」による液状化防止効果を立証



## 2000

1996年 H8

・ケニアナイロビに駐在員事務所を開設  
・タイ チョンブリ立体交差施工



・北陸新幹線 丸子トンネル施工



1997年 H9

・東京湾横断道路 浮島トンネル施工



1998年 H10

・東名高速横浜青葉インターチェンジ施工



1999年 H11

・高品質再生粗骨材「サイクライト」の製造システムを開発



2000年 H12

・「ニューソイル」が地球環境技術賞を受賞

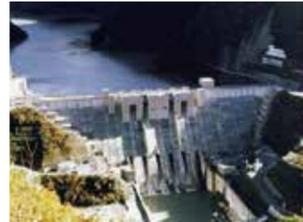
## 2005

2001年 H13

・長沢不二男会長が土木学会功績賞を受賞

2002年 H14

・「TOFT工法」が第4回国土技術開発賞受賞  
・長島ダム施工



2003年 H15

・みなとみらい線 新高島駅施工



2004年 H16

・地盤改良技術「DCM-L工法」が建築技術性能証明を取得  
・石神井川護岸改修工事施工



2005年 H17

・君津最終処分場(施工)が環境の先駆的取り組みを表彰するウェスティック大賞で環境大臣賞を受賞



## 2010

2006年 H18

・東北新幹線八甲田トンネル工事ほかで土木学会技術賞を受賞  
・「DCM工法」に4軸機を投入



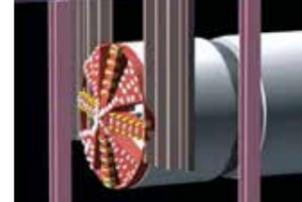
2008年 H20

・コーポレートメッセージ制定『人と地球の架け橋に』  
・忠別ダム工事が土木学会技術賞を受賞



2009年 H21

・内径3500mmの切削シールドにより世界初の本格工事で鋼材切削除去成功



2010年 H22

・関西国際空港施工



2010年 H22

・覆工コンクリートの養生システム「ひびないん養生システム」を開発、実証  
・ルーマニア鉄道近代化工事施工



## 2015

2011年 H23

・インドネシアパトゥールハ地熱発電所施工



2012年 H24

・「クラコン養生管理システム」を開発  
・「スマートコラム工法」を開発  
・当別ダム施工(国内初の本格的CSGダム)



2013年 H25

・深層混合処理工法「DCM-L工法」で施工された地盤改良の施工品質を3次元で見える化する技術を開発、実証  
・SMW工法や場所打ち杭などの鉛直精度管理システムを開発、実証  
・「スマートコラム工法」実証試験を公開



2014年 H26

・「端末管事前撤去型AGF工法(AGF-TK工法)」を開発  
・北上市和賀中部地区調整池施工  
・「地震・津波に対して強靱な三面一体化堤防構造」の新しい防潮堤を開発



2015年 H27

・多治見宅地造成工事施工  
・「四日市グリーンソーラーガーデン」完成  
太陽光発電事業に参入



・「3次元開発設計支援システム」を開発  
・「パイプクーリング制御システム」を開発

## 2019

2016年 H28

・創立75周年「2025年ビジョン」を発表



・マニラに「フィリピン支店」を開設  
・清滝生駒道路 高山大橋交差点施工  
・トンネル工事における発破音を低減する覆工コンクリート養生型吸音バレーンシステム『ノイズカットバレーン』を開発

2017年 H29

・盛土締め試験作業の無人化に向けて自動R1試験ロボットを宇宙航空研究開発機構(JAXA)・竹中工務店と共同開発  
・「スマートコラム工法」を開発  
・土木仮設構造物変状自動計測システム「メッシュネット」を大阪大学他と共同開発  
・由良川相長川水門工事施工



2018年 H30

・L2地震(液状化)対応  
広間隔格子状地盤改良工法を開発  
・災害に強い新たな「まちづくり」  
石巻市新門脇地区復興業務



・補強鋼板運搬設置用マニピュレータを開発  
・大分川ダム施工  
・厚生労働大臣より女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定を取得  
・「トンネル切羽変状可視化システム」を神戸大学他と開発

2019年 H31/R1

・企業行動規範の改定  
・ユース大豊ウインドファーム施工



・フィリピンマニラ地下鉄工事受注  
・厚木排水区雨水貯留施設整備工事施工



竹中グループは、2014年に策定した「グループ成長戦略」によりグループ全体の事業領域を「まち」として捉え活動してきました。これからもグループ各社が緊密に連携して「まちづくり」の全てのステージで構想段階から企画・計画・建設・維持運営にいたる「まち」のライフサイクル全てにおいてステークホルダーとの対話を深めながら国内外における様々な課題に取り組み人々が安心して暮らすことができる「サステナブル社会」の実現を目指します。

## グループ成長戦略

「グループで、グローバルに、まちづくりにかわり、新たな価値を創る」



2016年当社は、社会環境に適合しながら持続的に発展するために「2025年ビジョン」を策定…時代が求める土木技術を通じて人々の安全・安心を支える「強い社会基盤」をつくとともに地球環境と共生する「グリーンインフラの構築」を目指しています。私たちは、グループ全体で社会的価値を創造する「まちづくり総合エンジニアリング企業」の一翼を担い安全・安心な社会の持続的発展に貢献しつつすることで着実なステップアップを図りステークホルダーとともに「輝く未来」へつなげていきたいと考えています。

## 竹中土木2025年ビジョンの目指す姿

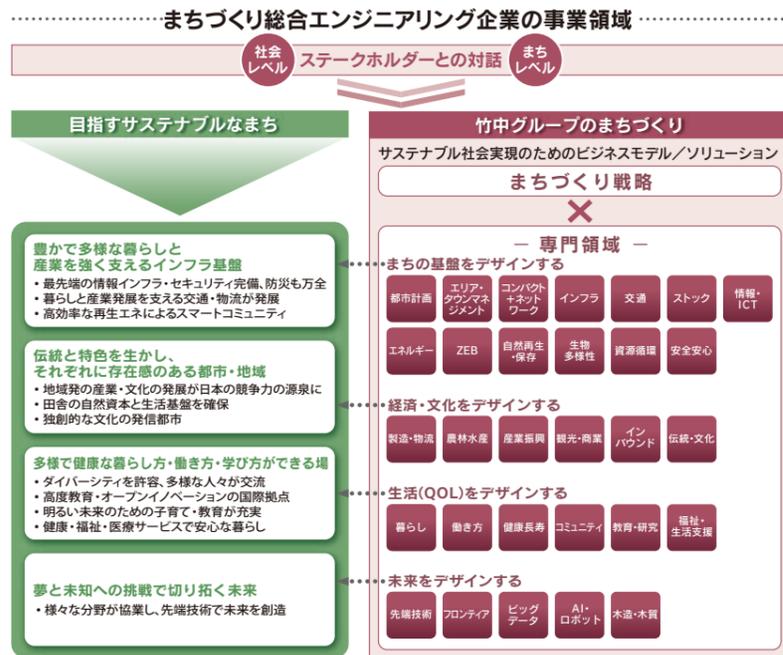
### 「魅力溢れる輝く企業」へのステップ

当社は、竹中グループが進める「まちづくり総合エンジニアリング企業」の事業領域のなかで、環境と共生する強い社会基盤「グリーンインフラの構築」を目指し、人々が安全・安心に暮らせる社会の持続的発展に貢献することで、「光り輝く企業」へと進化しつづけます。



## 目指すサステナブル社会と「まちづくり」の推進

目指すべき「サステナブル社会」に向けて…それぞれの「まち」における解決すべき社会的課題や構築する社会システム、サステナブル社会への転換の道筋は多種多様であることが想定されます。竹中グループは、「まちづくり総合エンジニアリング企業」として、それぞれの「まち」に即した戦略に基づき、サステナブル社会における「まちの基盤」、「経済・文化」、「生活(QOL)」、「未来」という観点から建設事業に新たなソリューションをもたらし、ビジネスモデルを創出します。私たちは、原点である企業理念のもと「竹中品質経営(TQM)」を推進…人々が幸せや喜びを感じることができる豊かで安心な「まちづくり」を通じ、これからもグループ全員の力で『SDGs』の達成に貢献し、サステナブル社会の実現に邁進していきます。



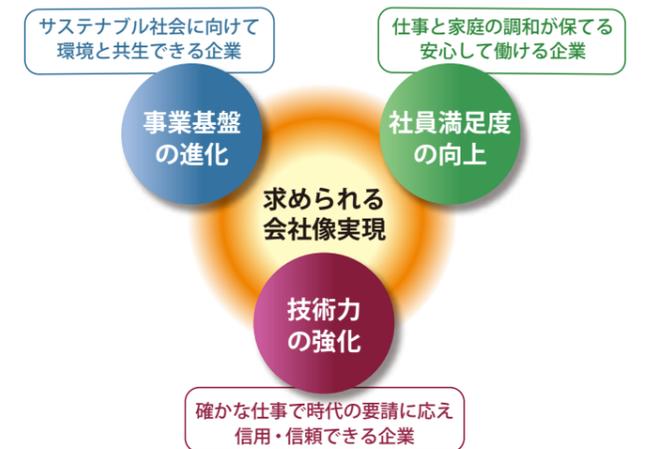
## 私たちの目指すグリーンインフラ

当社は、サステナブル社会の実現に向けて環境と共生する強い社会基盤…「グリーンインフラ」への挑戦を加速させます。従来の「壊して・つくる」フロー消費型社会で培ってきた高度な土木技術を、多様化・高度化する社会のニーズに適應できるよう進化させ、「良いものをつくり」…「手入れして(強靭化)」…「長く大切に使う」…ストック型社会の実現に寄与したいと考えています。



## ビジョン達成に向けて…

私たちは、グループ成長戦略のもとで独自性に磨きをかけ、「事業基盤の進化」「社員満足度の向上」「技術力の強化」を実践しながら、社会や社員から求められる会社像の実現に向けて、堅実にステップアップしていきます。





高速道路インターチェンジ工事のUAV写真測量・点群処理画像(神奈川県)



UAV測量(兵庫県)

働き方を変える「生産性革新」

将来に亘って建設業の持続可能性を維持していくには、建設技能労働者の減少への対応やワークライフバランスの向上を図っていくことが喫緊の課題となっています。そのためには、設計から施工に至るプロセス全体を変革し、CIMやICT、AIやロボティクスなどの先端技術を取り込んで、生産性を飛躍的に向上させていく必要があります。私たちは、竹中グループ連携&設計施工一貫体制のメリットを最大限に生かし

プロセス全体の生産性向上を加速させています。

CIM (Construction Information Modeling) : 調査設計段階から3次元モデルを導入し、施工段階まで連携・発展させて業務の効率化や高度化を目指す取り組み。  
ICT (Information and Communication Technology) : 情報通信技術

## 調査・起工段階からの「生産情報」の取り込み

当社は、工事の調査・起工段階からUAV写真測量やレーザースキャナ測量を行なって現況の地形等を正確に把握。この測量データと発注図面を比較しながら精度の高い設計・施工案を早期に提示します。さらに、工法や設計図面などの生産情報を取り込んだ「3次元設計データ」を作成し、日々の施工管理に活用することで施工計画とワークライフバランス向上の両立、品質の向上、省人化の推進、環境負荷の低減などを図っています。

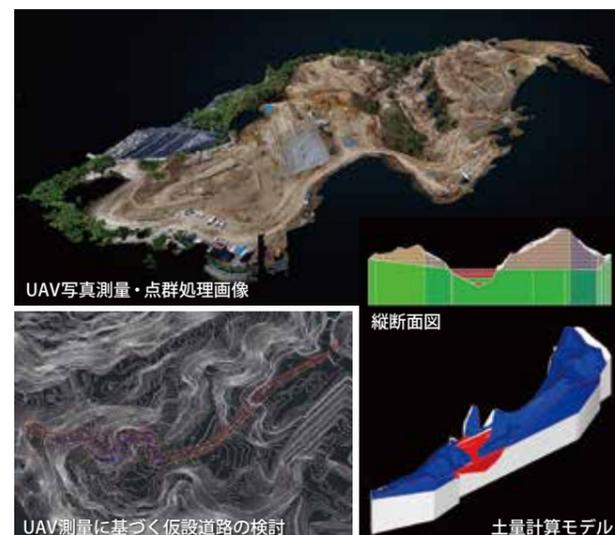
UAV (Unmanned Aerial Vehicle) : 無人航空機



レーザースキャナと試掘の合成モデル

## ❖ UAV写真測量による仮設道路計画

千葉県の最終処分場建設工事では、現況地形を正確に把握する「UAV写真測量」を行なって仮設道路を計画しました。さらに、平面・縦断・横断が統合された「3次元測量データ」を活用した計算モデルで施工土量を自動計算…任意の変更などの検討も容易になるため業務効率大幅に向上します。



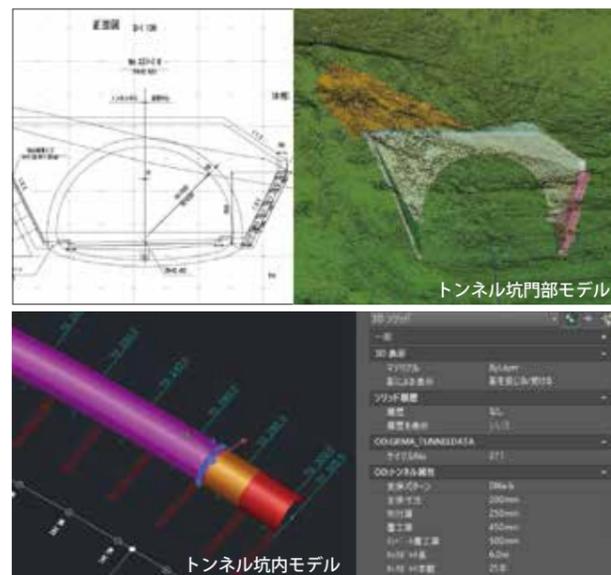
UAV写真測量・点群処理画像

縦断面図

UAV測量に基づく仮設道路の検討

土量計算モデル

## ❖ CIMを活用した施工計画の立案



トンネル坑門部モデル

トンネル坑内モデル

福島県のトンネル工事では、CIMを用いてトンネル坑門部や坑内のモデルを作成して「実態に即した施工計画」を立案。モデルを視覚的に確認しながら施工することで生産性が向上するとともに「安全で高品質な施工」につながります。

## 施工現場への「ICT」の展開

GNSS (Global Navigation Satellite System) : 全球測位衛星システム

当社は、全国各地の施工現場に最先端の「ICT」を導入し実績を上げています。高知県の急峻な山岳地帯での風力発電所建設工事では、UAV測量と建設機械のマシガイダンスを導入し、人による作業を大幅に削減して業務を効率化…工程の短縮を実現しました。また、施工が進む神奈川県の高速道路インターチェンジ工事や秋田県のダム建設工事においては、UAV測量・GNSS-3次元測量・レーザースキャナ測量などを使った「3次元測量データ」を日々の施工や出来形管理に活用。さらに、3次元マシガイダンス・バックホウや3次元マシコンコントロール・ブルドーザなどの「ICT建設機械」を導入して業務を省人化…生産性向上による工程の短縮や労働時間の縮減でワークライフバランスの充実を図っています。



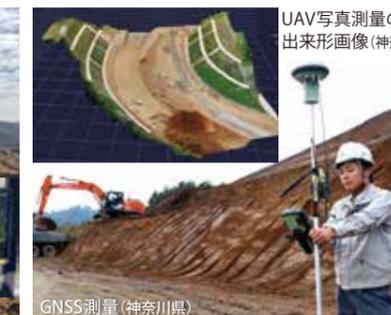
マシガイダンス・バックホウ(高知県)



TS・GNSSによる盛土締め回数管理(秋田県)



マシコンコントロール・ブルドーザ(秋田県)



GNSS測量(神奈川県)

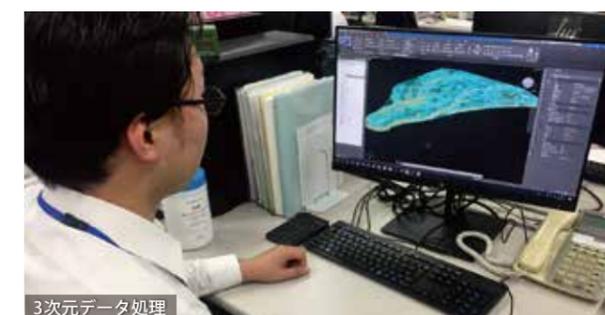
UAV写真測量の出来形画像(神奈川県)

## ❖ 3次元モデルで完成イメージを共有

兵庫県のゴルフ場コース改修工事では、設計段階や施工において人の感覚に頼ることが大きいことに着目し、お客様との対話の中で積極的にICTを導入…「3次元モデルデータ」を作成してコース設計者・発注者と完成イメージを共有するとともに、グリーン造成工事においては3次元レーザースキャナを用いた測量及び出来形管理を実施して品質の向上と工期・労働時間の短縮を実現しました。



3次元モデルデータ



3次元データ処理



3次元レーザースキャナ測量



## 「働き方改革」に取り組み魅力ある会社へ…

少子高齢化が進む中で、国が掲げる「一億総活躍社会」の実現に向けた「働き方改革」の取り組みが日本中で加速しています。当社が推進する「働き方改革」は、長時間労働や休日労働の削減のみならず、「全従業員が働きやすい環境で心身ともに健康で働き最大限の能力を発揮できる」ことを目指し、経営トップと語らう『オンサイトミーティング』等を通じて社員の想いを反映しながら「ワークライフバランスの向上」や「ワークプレイスの改善」に継続して取り組んでいます。

私たちは、ステークホルダーや社会からの共感と信頼を得ながら「新しい働き方」への改革を加速させ、魅力ある総合建設会社として持続的に発展していきたいと考えています。



社員が「想い」を述べる「オンサイトミーティング」

## 私たちが目指す「魅力ある働き方」



## 「4週8閉所」の実現に向けて…

天候の影響を受けやすい土木工事における「完全週休2日」は高いハードルですが、魅力ある産業として将来に亘って継続発展していくには、解決しなければならない喫緊の課題です。当社は、労働時間の削減と業務の効率化を目指して「アクションプログラム」を策定…ステークホルダーの皆様とともに課題を抽出しながら「4週8閉所」の実現に向けて歩みを進めています。



## ワークライフバランス

会社を支える従業員の誰もがやりがいをもって健康に働き、充実した生活をおくれるよう、意見交換を行いながら「ワークライフバランス」の向上に取り組んでいます。従業員が個々のライフイベントを大切に、仕事と生活の調和が図れるよう「労働時間の削減」を推進。育児・介護に関わる「従業員支援制度」を一層充実させ、心身ともに健康で安心して業務に打ち込むことができる環境整備を進めています。

## 業務プロセスの改善

働き方を変えていくために、業務の全てのプロセスで仕事を進める手順や手法を改善していきます。働きやすい環境の整備はもとより、「テレワーク」の試行や子育てを支援する「時短勤務」等を推進。さらに、業務の負担を軽減するタブレット端末や「ICT」の導入を加速させて労働時間の削減や休日・休暇の取得向上につなげていきます。



「テレワーク」

TV会議

## ワークプレイスの改善

竹中グループは、既成の価値観にとらわれない柔軟な「新しい働き方」にチャレンジしています。当社の大阪本店・新オフィスは、社内外の情報共有に有効なデジタルサイネージ(電子掲示板)、ファミレスブース+集中ブース(面談ブース)やリフレッシュエリア等を新たに導入し、「新しい価値創造」と「生産性向上」を実現します。竹中技術研究所は、Creation「一人ひとりの創造性が高まる環境へ」Innovation「オープンイノベーションを促進する環境へ」をコンセプトに、既成概念にとらわれないゾーニング・空間設計と最新の建築・設備・情報技術を適用…「新価値創造力の向上」を目指して新しい研究所へと生まれ変わりました。



大阪本店：集中ブース

大阪本店：リフレッシュエリア



技術研究所：多様な空間・環境を積極的に導入したワークスペース (photo：島尾望 / エスエス)

## 作業服を一新して働きやすさを追求

竹中グループはICTを駆使した「竹中スマートワーク」を推進しています。その一環として作業環境の変化に合わせて作業服を改定…タブレット端末等を収納できる大型ポケットを設けるなど機能性と動きやすさを追求しました。また、女性用作業服を新たに導入。ワークスタイルの変化に柔軟に対応し、グループ連携と一体感を醸成します。



## ダイバーシティの推進

当社は、性別・国籍・年齢などに関わらず、多様な人材の誰もが働きやすい環境の構築を目指して、ダイバーシティ・マネジメントを推進しています。

### 女性にとって働きやすい職場へ

女性社員の就業継続とキャリアサポートに焦点を当てたダイアログ等を通じて「女性活躍推進」を加速させています。また、年々増加する女性技術者にとって「快適に働ける職場」を整備するために、2017年より作業所等の「女性パトロール」を実施。女性目線からの意見を労働環境の改善に取り入れています。



女性管理職が活躍

機材センター・女性パトロール



このような当社の取り組みは、女性活躍推進に貢献する活動を表彰する「日建連けんせつ小町活躍推進表彰」において2016年・2018年の2度「優秀賞」を受賞。また、2018年には厚生労働大臣より女性活躍推進に関する状況等が優良な企業として「えるぼし」認定を取得しました。



「けんせつ小町」2016年・2018年「優秀賞」

「えるぼし」認定(2018年)

## 日建連の快適職場「プラチナ」認定

日建連の第2回「快適職場認定」において、当社の2つの作業所…「北陸新幹線丸岡春江高架橋工事」と「天神明治通り地下通路建設工事」が、働きやすい環境整備への取り組みレベルが高いとして「プラチナ認定」を受領しました。今後も技能者が安全・快適に働ける環境整備を推進します。



東日本大震災による被災地の復興は着々と進んでいます  
地震や自然災害に負けない「強い国土」への期待は高まる一方です。  
土木を専門とする当社は「強くしなやかな国土をつくる」ことを使命に  
想いを込めて大地と向き合い「地盤改良技術」を追求…  
将来に亘って「安全・安心な社会」を支えつづけます。



河川堤防復旧工事における地盤改良 (岩手県)



高速道路盛土工事における地盤改良 (徳島県)

強い国土を支える「地盤改良技術」

1975年に当社が開発した「深層混合処理工法 (DCM工法)」は、海底や河川などの軟弱地盤にスラリー状のセメント系固化材を添加・混合して地盤を強固に改良する技術で、DCM専用船による海底地盤の改良工事で、東京湾横断道川崎人工島工事 (1990年)、関西国際空港Ⅱ期工事 (2000年)、東京国際空港D滑走路 (2007年) など数多くの実績を遺してきました。  
その後、海底・河川だけでなく建築工事における軟弱地盤の改良や地盤の液状化防止など陸上工事のニーズが高いことから、1981年に「DCM-L工法」へと発展。土木工事のみならず、建築構造物の基礎工事などにも数多く適用され、2004年には (財)日本建築総合試験所から「建築技術性能証明」を取得。軟弱地盤の支持力増強や地震時の液状化対策において、コストや工期に貢献する「安全で信頼性の高い地盤改良工法」として広く認知されています。  
海底・河川から陸上へと進化した地盤改良技術「DCM工法」は発展を続け、「DCM-L工法」による改良体で遮水壁を構築して汚染土壌を封じ込める技術や軟弱な地盤を格子状に囲んで地盤改良する液状化対策技術「TOFT工法」、住宅地など狭隘な施工条件下での液状化対策技術「スマートコラム工法」、山留を用いずに掘削する「DCMオープンカット工法 (DOC工法)」など様々な技術に応用されています。

- 1975年 ・DCM工法 (深層混合処理工法) を開発
- 1979年 ・DCM工法が第31回毎日工業技術賞を受賞
- 1990年 ・大規模オープンカット工法「DOC工法」を開発
- 1992年 ・耐震固化工法「TOFT工法」を開発
- 1995年 ・阪神淡路大震災の地盤液状化に伴う地盤沈下被害の中で「TOFT工法による液状化防止効果」を立証
- 2002年 ・地盤改良処理機の建入れ精度制御システム「パペット工法」を開発
- 2004年 ・DCM-L工法が『建築技術性能証明』を取得
- 2006年 ・DCM工法に「4軸機」を投入
- 2011年 ・DCM-L工法が『土壌汚染封じ込め性能証明』を認証
- 2013年 ・DCM-L工法で施工された地盤改良の施工品質を3次元で見える化する技術を開発・実証
- 2015年 ・スマートコラム工法が地盤工学会関東支部技術賞受賞
- 2019年 ・DCM-L工法が『建築技術審査証明』を改定設計基準強度5,000kN/m<sup>2</sup>に対応



地盤改良技術を「地盤液状化対策」に応用

地盤改良に多くの実績と信頼性を有する「DCM-L工法」を液状化対策技術に応用・発展させたのが「TOFT工法」です。セメント系の地盤改良工法である「DCM-L工法」を使って液状化対象地盤を格子状に囲み、地震時の砂地盤のせん断破壊を防止することで構造物を保護し、液状化による大変形を防ぐことができます。  
100万m<sup>3</sup>以上の施工実績を有する「TOFT工法」は、最大機能で最小コストとなる設計ノウハウと高品質地盤改良技術として広く認知され、阪神淡路大震災において耐液状化効果を実証。2013年には、狭い住宅地での施工が可能な「スマートコラム工法」へと発展させました。



「スマートコラム工法」施工イメージ

地盤改良技術へのこだわりとやりがい

技術研究所・研修生の時から地盤改良技術の開発に携わり、研究員となってからも当社の看板技術である地盤改良技術の研究・開発に長く携わってきました。特に阪神大震災と東日本大震災では、「液状化対策技術」への期待が社会的ニーズとして高まり、TOFTやスマートコラムなど自身が担当した開発技術が数多くの案件に採用されて「社会の役に立った」ことは技術者として大きな喜びであり、やりがいを感じる事ができました。技術開発は、「先人が築きあげた技術を基本に新たなアイデアを積み上げてゆく」終点のない業務です。閃きにこだわり、具現化して社会に役立てるのが技術開発の本分ですから、これからも「課題を突き詰めて諦めずに取り組む」という初心を忘れずに精進したいと思います。  
技術研究所 地盤・基礎部  
小西 一生さん



DCM船による海底の地盤改良 (東京都)



DCM工法による河川の地盤改良 (東京都)



高速道路高架橋工事における地盤改良 (岐阜県)



DCM-L工法による港湾法に基づく臨港道路の地盤改良 (三重県)



TOFT工法による液状化対策 (徳島県)



住宅地の液状化対策 (千葉県)

新幹線や高速道路など速くて安全・快適な交通網は現代の社会生活に欠かすことのできない存在です。当社は、北陸新幹線・北海道新幹線・リニア中央新幹線や新東名高速道路など社会を便利につなぐ「交通インフラ」の整備を通じて人々の快適な暮らしを未来へとつなげていきます。

**新東名高速道路 葛葉川橋下部工 (神奈川県)**

発注者：中日本高速道路株式会社 東京支社  
 工事内容：工事延長 L=1,013m、切盛土工：約70,000m<sup>3</sup>  
 基礎工：場所打ち杭 φ1200 498本、他一式  
 下部工：橋脚 24基、橋台 3基、仮橋脚 4箇所、他一式



**北陸新幹線 敦賀駅高架橋 (福井県)**

発注者：鉄道建設・運輸施設整備支援機構 大阪支社  
 工事内容：施工延長 L=1,091m、場所打杭 378本 (φ1,500~φ2,500)  
 ラーメン高架橋 8連、PC箱桁橋 L=80m、橋脚 (壁式6基・門式14基)、線路設備工、他一式



**厳しい工程にも竹中土木の底力を発揮**

北陸新幹線工事は7年前の富山に次いで2度目…私にとってもこれまで一番の大規模現場です。厳しい工程を強いられるなかでも、鉄道工事に精通するベテラン経験者の的確なフォローと若い職員の頑張りによって随分と助けられています。JV作業所の総力を挙げて取り組む大規模な躯体構築工事は今まさに佳境。冬季の厳しい気候や生コンの調達難に加え、JR工事や駅舎建築工事と輻輳するので悩みは尽きませんが、北陸新幹線の開業予定に向けてベテランの



経験から学ぶ中堅・若手の「伸びしろ」に期待。安全面はもとより品質面でも『最良の成果』をあげて、発注者とともにJV作業所の全員が喜びの笑顔で工事を終えたいですね。

作業所長 澤江 昭彦さん

**“TEAM KUZUHA”全メンバーが一丸となって**

この工事は、埋蔵文化財調査の延長や支持層変更に伴う修正設計による杭工事着手の遅れ、その他発せられた工事一時中止などにより厳しい工期・工程が強いられました。そんな状況にも職員皆が日頃の「声掛け&気配り」を徹底して「現場の一体感」を醸成。『TEAM KUZUHA』という意識を全員が共有し一丸となって工程短縮策を提案&実行した結果、多くの民家が工事用地沿線に点在するなかで大きな苦情も無く施工を進め…クリティカルであった工区を「発注者が求める開通工程」に乗せることができました。



まだ設計変更が残っているものの工期も残りわずか…何より『無事故・無災害』を継続させ、発注者並びに『TEAM KUZUHA』のメンバーたちと笑いあって竣工を迎えたいですね。

作業所長 小國 智一郎さん



新東名高速道路 ぐみ沢上高架橋 (静岡県)



新東名高速道路 秦野インターチェンジ (神奈川県)



中部横断自動車道 東根熊トンネル (山梨県)



北陸新幹線 第2福井トンネル (福井県)



北陸新幹線 丸岡春江高架橋 (福井県)



北陸新幹線 武生橋りょう (福井県)

地球規模の気候変動により自然災害が猛威を振るう近年  
人々が快適に暮らせる「安全・安心な社会」が求められています。  
当社は、ダムをはじめ河川の堤防・水門や下水道の整備に取り組み  
土木の知恵と技術で安全・安心な暮らしを守ります。



### 大分川ダム(大分県)

発注者：国土交通省九州地方整備局 大分川ダム工事事務所  
規模：中央コア型ロックフィルダム  
堤高91.6m、堤頂長496.2m、堤体積 3,781,000m<sup>3</sup>  
集水面積 38.0km<sup>2</sup>、総貯水容量約24,000千m<sup>3</sup>



### 青野沢川河川堤防の整備(宮城県)

発注者：宮城県  
規模：復旧延長：745.4m(両岸)  
築堤盛土工：117,000m<sup>3</sup>、法覆護岸工：19,500m<sup>2</sup>、樋門工：3基、  
地盤改良1,070m<sup>3</sup>、旧橋撤去工・橋りょう新設工 他一式



### 職員・作業員の「頑張り」に支えられて…

北海道の現場が多く自身初めての東北勤務…協力会社を知らないことに加え、当初は震災直後で住宅事情が悪いため、労務宿舍及び職員宿舍の建設用地探しにひと苦労。着工後も施工地内に未買収用地やライフラインが多く残され、さらに河口部での施工ゆえ現場全体の地盤が川のような状況で、とにかく水に苦労させられましたね。このような施工環境のなか、皆が全身ずぶ濡れになりながら、真夏の炎天下での作業に精を出していただき…河川工事に経験の無い職員・作業員の頑張りによって随分助けら



れたと感謝しています。今は北海道に戻りましたが、堤防が復旧した時に見せた「皆さんの笑顔」を決して忘れず、「人のために役立つ土木」に精進していこうと思います。  
作業所長  
長谷川 潤さん

### 「ダム屋」の経験と知識を次世代に繋げる…

大分川ダムは、盛立に必要な岩石やその他材料を近くの山から採取する「ロックフィルダム」…これでコンクリート・CSG・ロックフィルとひと通り経験しました。施工においては、GNSSを活用したダンプ運行管理システムや重機の自動化を行う『ICT』などを導入。若い職員たちは初めてのダム工事なので苦労したでしょうが、その分得たものも大きいはず…多くの仲間と力を合わせて造り上げる達成感と喜びこそ「ダム工事の醍醐味」ですから、良い経験になったことと思いますよ。また、ビジネス漫



画「昼間のパパは光ってる」のモデル現場となったのも忘れられない思い出ですね。現在は、秋田県のダム現場で経験と知識を次世代に繋げるべく日々奮闘しています。  
工事課長  
三浦 勝雄さん



河内川ダム(福井県)



小石原川ダム(福岡県)



宮古仲原地下ダム-箕濱西部(沖縄県)



由良川相長川水門(京都府)



津谷川河川災害復旧(宮城県)



千歳川東の里遊水池排水門(北海道)

環境と共生するサステナブル社会の実現に向けて「クリーンエネルギー」や「インフラの補強・延命」への期待が高まっています。当社は、人と環境に優しい「グリーンインフラ」の構築を目指し、持続可能な「ストック型社会」に向けた取り組みを加速させています。



**防府バイオマス・石炭混焼発電所(山口県)**

発注者：エア・ウォーター&エネルギー・パワー山口(株)  
 工事内容：発電所設備基礎一式、外構工事一式  
 基礎杭 φ400~900mm(杭長5~28m、N=416本)  
 地盤改良 7,000m<sup>3</sup>、コンクリート 10,400m<sup>3</sup>



**竹中土木の技術力 & 品質管理に感服！**

施工中は「常にきれいな現場」を目指しました。品質管理においては竹中土木に見習うところが多々…なかでも打ち出しコンクリートの出来栄には感服！プロジェクトの設計段階から施工まで一連の中核を担った白武所長は、プラント工事と関連要素の細部まで熟知する頼もしい存在。後輩ながら、その臨機応変の対応力と交渉力には感心させられました。また、個性溢れる新入社員の働きぶりも印象的でしたね。

竹中工務店  
 藤井 秀治 所長

**「竹中グループの総合力を発揮できた」と自負！**

竹中工務店とのJVにて受注した本工事は、国内最大規模となる『バイオマス・石炭混焼』の火力発電所を設計・施工するもので、当社はボイラ・タンク・パンカの架構基礎と排水溝・外構工等を主に担当しました。

難しいプラント工事ではじめての現場所長ですから正直「不安でいっぱい」でしたが、JVを組む竹中工務店の藤井所長が偶然にも大学の先輩で「困ったことがあればいつでも相談に乗ってくださる」気さくな方。色々な面で助けていただき心より感謝しています。

様々な工事が錯綜する中で先輩方と相談しながら役割分担を明確化。竹中工務店と緊密に調整を行いながらグループの総合力で「お客様の求める品質・工程」を確保できたことは、「グループ連携」の規範となるものと自負しています。

作業所長  
 白武 寿和さん



**湯河原町真鶴町一般廃棄物最終処分場(神奈川県)**

発注者：湯河原町真鶴町衛生組合  
 工事内容：仮設工一式、掘削工 62,600m<sup>3</sup>、地盤改良工 6,559m<sup>3</sup>  
 貯留構造物：鉄筋工 2,365t、コンクリート工 24,468m<sup>3</sup>、  
 上屋工 6,014m<sup>2</sup>  
 遮水シート工(底面3重・壁面2重) 10,849m<sup>2</sup>、他一式



**「サステナブル社会」実現への足掛かりに…**

廃棄物処分場の再構築というあまり類のない工事のうえ、屋根付きのクローズド型処分場なので確認申請が必要な建築工事。足掛け5年の大規模構造物工事に経験の少ない若手ばかりが集まり…協力会社から教わることも多々ありましたが、サステナブル社会を実現するうえで重要な「廃棄物最終処分場再整備」を事故なく終えて「ホッとした」と「関係者に感謝」が今の素直な心境です。

携わった若いメンバーは散り散りになりましたが、工事経験を活かしてレベルアップを継続…将来は『会社を背負

う』人間に成長してくれると期待しています。また、着工当初から撮影した写真・映像に編集を重ねた「施工記録DVD」は自信作ですので、多くの方に観てもらいたいですね。

作業所長  
 茂呂 達明さん



プロスペクト成田神崎B工区太陽光発電所(千葉県)



ユーラス大豊ウインドファーム(高知県)



風力発電所(山形県)



裾野市最終処分場(静岡県)



君津環境整備センター(千葉県) ※第3期施工中



丸の内熱供給株式会社 常盤橋洞道新設(東京都)

社会環境の変化に適応した「土地の有効活用」や「既存インフラの長寿命化」へのニーズが高まっています。当社は、「まちづくり総合エンジニアリング企業」を目指す竹中グループの一翼を担い環境と共生する強い社会基盤の構築&魅力的なまちづくりに取り組み社会の持続的発展に貢献しつづけます。



**那覇広域都市計画事業・アワセ土地区画整理事業 (沖縄県)**

発注者：北中城村アワセ土地区画整理組合  
 工事内容：施工面積 約478,510m<sup>2</sup>、切土量 684,400m<sup>3</sup>、盛土量 524,300m<sup>3</sup>  
 法面工、排水工、道路舗装工、調整池工 他一式



**首都高速道路(永福)上部工補強 (東京都)**

発注者：首都高速道路株式会社  
 工事内容：床版補強工 29,000m<sup>2</sup>、コンクリート片剥落防止工 1,690m<sup>2</sup>  
 塗替塗装工 39,100m<sup>2</sup>、仮設工・実施設計 他一式



**リニューアル工事を経験した若手の成長に期待**

今回の補強工事は、国道を夜間車線規制して吊り足場を設置することから始まりました。工事対象物とその周囲すべてが交通量の多い供用中の道路なので道路規制中の交通安全対策や設置した足場の保全、足場上からの資機材落下防止に細心の注意が必要。夜間規制は国道で607回、料金所の閉鎖は9回実施といった「昼夜ともに息の抜けない」大変な工事にもかかわらず、どうにか「無災害」で終わることができたのは、発注者のご支援・ご指導と先輩方の助言、若手の頑張りに助けられたものと感謝しています。



形あるものに手を加える「補強・修繕技術」は日々進歩…この現場を経験した若い職員には、これからも需要が増えるリニューアル工事で当社の技術力を継承・発揮して欲しいですね。  
 作業所長 竹内 裕豊さん

**米軍返還跡地再開発のモデルケースに…**

アワセ土地区画整理事業は、それまで有効活用できなかった北中城村の米軍返還跡地を再開発するもので、仕込み段階から終了まで足掛け約9年間携わることとなりました。沖縄県で初めての組合方式による一括業務代行の中で、幾度も大きな壁に阻まれ挫折。また、様々な要因に影響され事業計画を6回変更する必要に迫られました。経験してきたノウハウを可能な限り発揮して期中管理を行った結果…関係者(組合・JV構成員・地元企業等)の皆様にご喜んでいただけの事業が遂行できたのではないかと自負しています。



組合解散まで残りわずかとなりましたが、アワセが沖縄県中南部地域の新たな「魅力あるまち」としていつまでも発展しつづけることを願っています。  
 プロジェクトマネージャー 堀上 仁司さん



石巻市新門脇地区のまちづくり(宮城県)



千葉北部牧の原・東の原宅地整備(千葉県)



西吉見南部土地区画整理事業(埼玉県)



中川防潮堤耐震補強(東京都)



大阪地下鉄2・5号線耐震補強(大阪府)



高速道路橋脚耐震補強(神奈川県)

安全・安心な暮らしを支える…

近年、都市生活の安全・安心を支える「地下インフラ」の整備や土地の有効活用に欠かせない「土壌汚染対策」へのニーズが高まっています。当社は、環境と共生する「グリーンインフラ」の構築に取り組みサステナブル社会の実現に貢献していきます。

大岡川右岸雨水幹線下水道整備工事(神奈川県)

発注者：横浜市環境創造局  
 工事内容：仕上がり内径1,800mm泥土圧式シールド工(延長663.5m)、鋼管接続工φ800、地盤改良工、防音ハウス設備工 他一式



東京支局建物等解体及び土壌汚染対策工事(東京都)

発注者：独立行政法人造幣局  
 工事内容：土壌調査 31,994.62m<sup>2</sup>、建屋・基礎解体 25,378.14m<sup>2</sup>、土壌汚染対策工事(対策土量 25,607.6m<sup>3</sup>) 他一式



シールドのスキルを次世代に継承したい!

今回初めて自社工事の作業所長…20代の若い職員たちと一緒に「1年生所長」として勉強に励む毎日です。この現場は、近接構造物への注意や工程管理に難しさはあるものの、シールド工事全体の流れを把握するには丁度よい規模。存分にチカラを発揮できるよう「風通しの良い雰囲気づくり」に注力し、彼らの考えや意見をできるだけ尊重しています。若いメンバーは皆真面目で優秀。経験のない工事で難しさはあるでしょうが土木技術者としていずれは通る道…自分の考えで施工すれば「身に付くもの」が多いですから、「俺がやらなければ」という気概を持って前向きに取り組んで欲しいですね。会社の将来を担う「シールド技術者」に育ってくれるものと期待していますよ。



作業所長  
 新田 忠弘さん



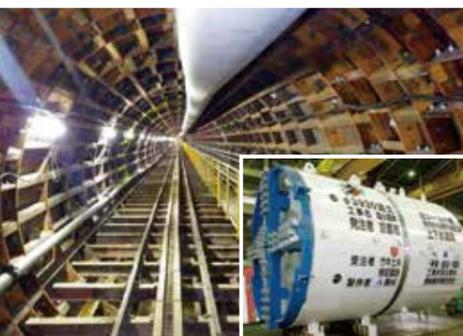
お客様のニーズに合わせて最良の対策を提案

土壌環境グループは、「お客様の立場でリスクコミュニケーションを支援する」をモットーに、お客様が抱える土壌汚染のリスクや課題と向き合い…他社に負けないハイレベルな知識&ノウハウに裏付けられた提案力と絶対的なコストパフォーマンスで営業活動を展開。ニーズに合わせた最適な土壌調査や対策計画の立案、対策工事とモニタリング、さらに、その後の開発工事への引渡しに至るまでをトータルで行っています。また、法律違反となる場合もある品質トラブルの防止対策を徹底…いずれの



お客様からも「竹中土木に頼んでよかった」と高評価を得ています。今後は活動範囲を全国へと広げ、お客様の期待に応えるべく最大限のスキルを発揮したいと考えています。

土壌環境グループGL  
 小岩 征義さん



京都市塩小路幹線シールド(京都府)



上水道配水本管シールド(東京都)



都市ガス用シールド(茨城県)



DCM工法による地下水原位浄化(群馬県)



土壌分級洗浄工法(大阪府)



生石灰混合工法処理施設(神奈川県)

1941年設立の海外土木興業(株)をルーツとする当社の海外事業は開発途上国の社会インフラ整備を通じて経済発展に大きく貢献。現在は、フィリピン支店を中核として事業展開を図るとともに新規市場を視野にグローバル人材の育成にも力を注いでいます。

ヌサトゥンガラ給水(インドネシア)

西ヌサトゥンガラ橋りょう(インドネシア)

パワカラエン砂防ダム(インドネシア)

ニアス島橋りょう復旧(インドネシア)

## 海外の魅力は出会いと刺激

海外で働くことの一番の魅力は「出会いと刺激の大きさ」…良くも悪くも日本人とは違う彼らとの仕事は、空気を読んでいたら何も始まりません。どうすれば「自分の想い」が実現できるか、あらゆることを想定しながら仕事を進める難しさを日々痛感しています。また、海外では誰かの力を借りなければ出来ない事がほとんど…そんな自分の無力さと葛藤しながら、仲間と目の前の壁を少しでも乗り越えた時は苦労の何倍もの感動があります。そのような「小さな感動」が次のステップへの原動力となり、新たな挑戦を後押ししてくれます。「当たり前が通じない海外工事」…そんな刺激的な世界で自分を磨き続けていきたいと思っています。

岡田 新作さん(2005年入社)

## 若手社員の海外研修

将来の海外事業拡大を見据えて若手社員の海外研修を実施…国ごとに異なる言語・法律・基準・許認可制度や習慣・立地・協力会社など、国内とは違う環境でも活躍できる「グローバル人材」の育成に力を注いでいます。

### 竹中工務店・海外事業所でのOJT研修

- 2004年 技術系1名/タイ竹中
- 2005年 技術系1名/ヨーロッパ竹中
- 2006年 技術系1名/タイ竹中  
技術系2名/ヨーロッパ竹中
- 2008年 事務系1名/中国竹中  
事務系1名/ヨーロッパ竹中
- 2010年 技術系1名/ドーハ空港プロジェクト

### 自社海外プロジェクトでのOJT研修

- 2013年 技術系2名/ジョージア
- 2015年 技術系1名/インドネシア
- 2017年 技術系2名/インドネシア
- 2018年 技術系1名/フィリピン



2017年インドネシア研修

## 国際支店の事業活動

2025年ビジョン達成に向けた海外戦略の一環として、2016年に首都マニラに「フィリピン支店」を開設。ODA案件を中心に営業活動を進めています。

### フィリピンを新たな海外事業の拠点として…

当社の海外事業は、1997年の「アジア通貨危機」の影響で一時縮小…その後2006年より営業本部で海外事業を再開、2014年には東京本店の傘下で国際支店として活動を始めた若い組織です。

今の課題は「継続的な人材育成」…やがて直面する国内市場の減少を見据え、海外工事経験者の質・量の増強を図るとともに、日本政府のODAインフラ整備事業の展開を視野に「戦略的な事業の拡大」を計画しています。



富田 洋 国際支店長

現在は、ドゥテルテ大統領の主要政策に応えた日本政府の積極的な投資・経済支援を背景に、フィリピン初の「地下鉄工事」や「大断面トンネル工事」などを日系・現地企業と連携・協調して確実に受注すべく活動しています。今後も、ODA対象諸国に対する高品質なインフラシステムの輸出に携わり、これらの国々の未来の発展に大きく寄与するとともに、海外工事を継続して手掛けることで「グローバル人材」を育成していきたいと考えています。



フィリピン支店事務所が居るエンタープライズセンタービル

伊藤 寛一 フィリピン支店長

## 夢は途上国の発展に貢献!



大石 力也さん(2018年入社)

インフラ整備を通じて途上国の方々の力になることが学生時代からの夢でした。入社2年目で国際支店に配属され…まさに「思い描いていた業務」に毎日ワクワクしています。経験が浅いためまだまだ力不足で学ぶことばかりですが、早く一人前の「頼れる事務担当」になれるよう日々精進。「開発途上国に貢献する」という志を胸にスキルアップを重ね、世界で活躍できる「グローバル人材」になりたいと思っています。

## 海外も国内も工事の本質は同じ!

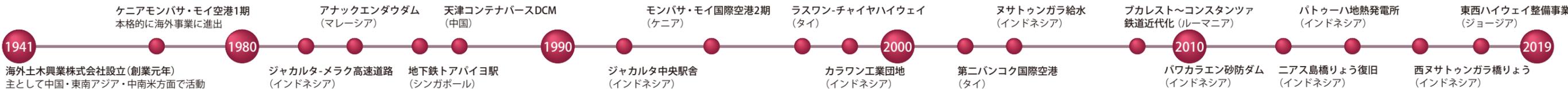
福原 幸司さん(2015年入社)

現在はマニラ地下鉄準備工事に配属され、協力会社との打合せや図面からの数量算出、施工計画などの準備業務を行っています。

海外工事は初めてですが、国内で得た経験と知識がいかに重要かを実感。また、国内では当たり前だった「工事に適した品質」の資機材の調達も思うにまかせず…海外工事ならではの難しさも感じています。

忙しい毎日ですが、JVスタッフや文化の違うローカルスタッフと仕事をしていくなかで「大きな視野」で物事を考えられるようになったと思います。環境が異なる海外生活は苦労することもあります。仕事のスキルアップだけでなく「人として成長できる」と思っています。

## 海外プロジェクトの歩み



モンバサ・モイ空港1期(ケニア)



地下鉄トアパイヨ駅(シンガポール)



天津コンテナバースDCM(中国)



ジャカルタ中央駅舎(インドネシア)



第二バンコク国際空港(タイ)



ブカレスト~コンスタンツァ鉄道近代化(ルーマニア)



パトゥーハ地熱発電所(インドネシア)



東西ハイウェイ整備事業(ジョージア)

# たゆまぬ技術革新が生み出す 新たなものづくり

現代社会が求める環境や安全・安心、生産革新などにかかわる最先端の技術開発とイノベーションを指向する独創的なシーズ技術の研究開発は竹中技術研究所を中心に推進しています。

## 専門分野の技術者が集う竹中技術研究所

1953年開設の竹中技術研究所は、「時代のニーズ」を先取りした竹中グループ全体の「新技術の創出」及び「実証フィールド」として世界トップレベルの研究を行い、お客様に満足いただける価値を提供しています。

建築や土木など建設全般にかかわる多様な専門分野の技術者が集い「TAKENAKA」の伝統と経験に革新を融合。関連部署や国内外の研究機関と連携しながら世に送り出した数々の技術は、我が国を代表する施工法として高い評価を得ています。

## 未来を拓く先端技術の研究開発

竹中グループは、これからの「まちづくり」に向けて「地球環境に貢献する技術」「安全・安心・快適性を支える技術」「最先端の空間創造技術」「高度な建設を可能にする技術」の4つの領域で研究開発・技術革新に取り組んでいます。

時代とともに変化する社会のニーズ、地域やお客様が抱える課題を的確に捉え…まちづくりのあらゆるステージで先端技術・ソリューションを提供していきます。



社外の方々との共創ゾーン

## 研究深耕と新価値創造を目指して

「新価値創造力の向上」を目指した2つのコンセプト…「一人ひとりの創造性が高まる環境へ」「オープンイノベーションを促進する環境へ」を元に、既成概念にとられないゾーニング・空間設計と最新の建築・設備・情報技術を適用してオフィスエリアを大規模にリニューアルしました。

### ① Creation 一人ひとりの創造性が高まる環境へ

ABW\*でよく見られる「家具・内装による多様性」と、「建築設計による多様性」を掛け合わせ、創造性を刺激するさまざまな空間を構築。さらに、多様な個人が行き交う空間設計により、今までにないコミュニケーションを醸成されることで創造的活動の増加も期待できます。

### ② Innovation オープンイノベーションを促進する環境へ

外からの刺激によるイノベーションを目指して…課題の発見や解決策の創出につながる「深い対話の促進」と、「研究資源のオープンな活用」に適した環境へと整備しました。

分野や立場を超えたダイナミックかつセキュアな議論を加速させ…時にはお客様さえも巻き込みイノベーションの創出を後押しします。

\* [ABW] Activity based Workingの略  
「打ち合わせ」や「集中して思考する」などアクティビティに応じ、ワーカー1人ひとりが自由に執務エリアを選択する働き方。



## 生産性向上に向けた技術革新

竹中土木は、2025年ビジョンのなかで「生産性向上」を掲げ、「安全・品質」に寄与する技術開発とイノベーションを推進しています。ICT・CIMの活用をはじめロボット・ドローン・GNSSを用いた「無人化・自動化」技術の開発など、多様なアプローチで「生産革新」を目指しています。

### 研究成果の一例

#### ❖ 自律制御ロボットによる「RI試験」の無人化技術

自律走行ロボットにRI試験器を牽引させて任意の場所へ移動…盛土工事の密度管理を無人で行う『自動RI試験ロボット』の開発を進めています。現在は土中に線源を打ち込み計測する透過型タイプのロボットを研究開発中です。



#### ❖ 「盛土材料管理システム」の開発

盛土材料の不良土の早期判定が盛土工事の品質向上に有効と考え「盛土材料粒径判定システム」を開発。プロジェクターとCCDカメラを用いて粒体の三次元計測を行うことで盛土に適した材料であるか否かをリアルタイムに評価できます。



道路工事での試験状況

粒径計測結果

## 技術研修生を選抜し次代の技術者を育成

建設技術の高度化・多様化に対応する一環として、全店からエントリーのあった社員の中から「技術研修生」を選抜…国内トップレベルの実証フィールドにおける2年間の実習・研究を通じて、次代の技術開発や設計・施工の中核を担う技術者を育成しています。

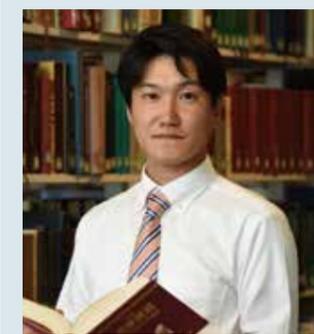


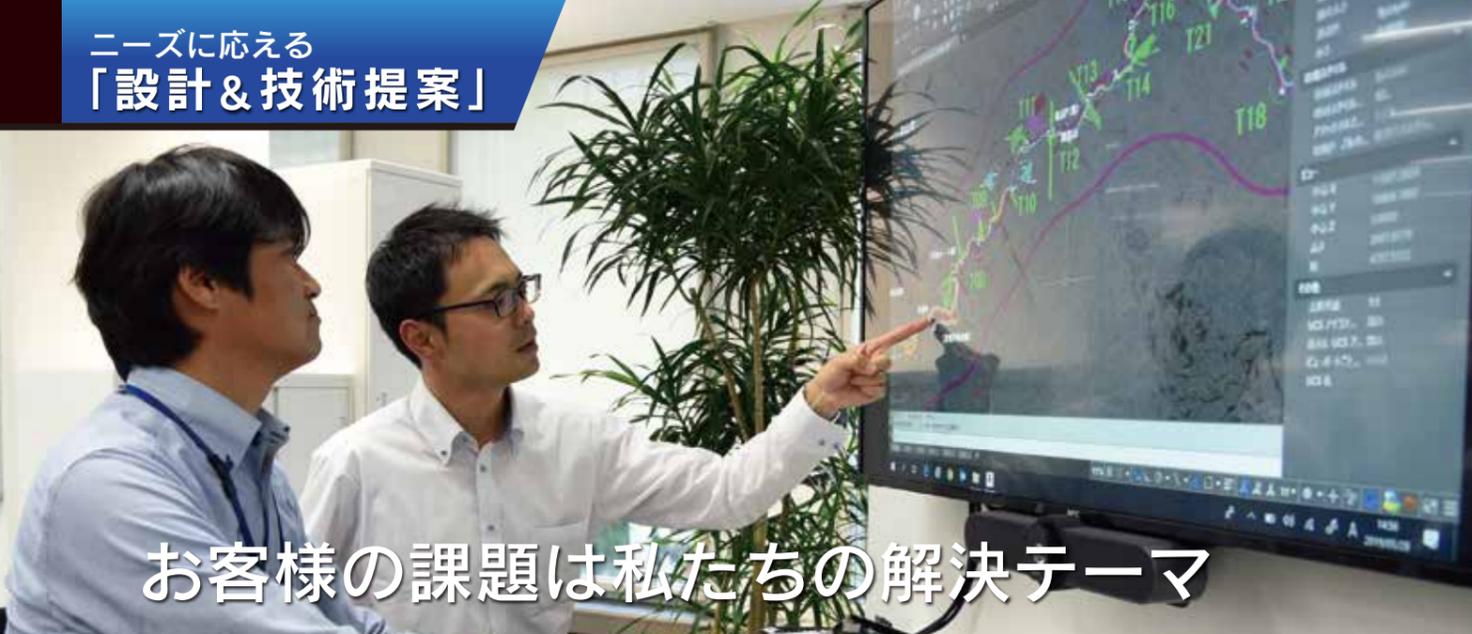
### 現場で役立つ技術力と発想力を鍛えたい！

6年間の現場経験のなかで様々な課題に直面し「技術的解決能力」の重要性を実感。「もっと技術力を高めてレベルアップしたい」と強く思い、研修生を希望しました。研修2年目の現在は、「地盤改良体の形状可視化技術の開発」というテーマで研究に没頭。土木的アプローチだけではなく音響工学や機械工学等の面から取り組む必要があるのが苦労していますが、「人・物・現象」に関わって成り立つ建設業において「広い学問体系と基本原理に基づいて問題を解決する能力を高められる」研修生は、とても価値ある貴重な経験。

また、世代や分野を超えて多様なスペシャリストと触れあうなかで…技術者としての視野が広がり、物の捉え方や発想が柔軟になったように思います。

技術研究所 研修生  
植松 佑太さん





## お客様の課題は私たちの解決テーマ

当社は、高度化・多様化する社会のニーズやお客様の要望に応える設計 & 施工を追求しています。「品質方針」を基に、技術設計部が関連部署と連携しながら柔軟な発想で創造力を駆使…プロジェクトを具現化する「設計プラン」や「技術提案」でお客様が抱える課題を解決します。

### 「国指定史跡」鶴岡八幡宮参道「段葛」の整備



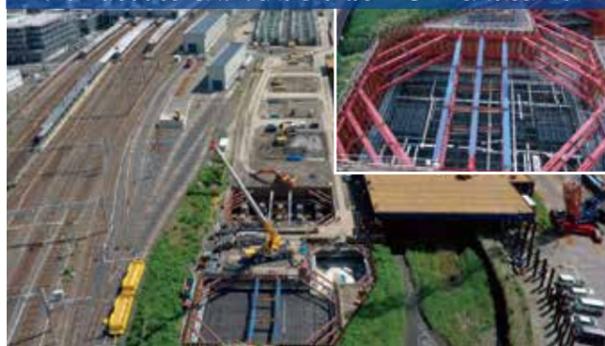
#### お客様の意図をくみとる設計 & 施工

国指定史跡・鶴岡八幡宮参道「段葛」の整備においては、「参道としての神厳と、史跡としての風致・遺構の保全」「桜並木の景観の回復」「参拝者・一般通行車両の安全確保」といった幾つもの課題と向き合い…文化財保護行政担当者の指導・助言や各分野の専門家らで構成される「委員会」における協議・検討を経て策定・決定するという長期計画。このため、お客様の意図や要望をくみとって「設計」にフィードバックするのに多大な労力を要しました。計画・工事着手から完了までおよそ3年半…作業所と協調しながら設計変更への対応や許可内容と現場作業工程との調整等々、苦心・苦労は絶えませんでした。



が、無事「通り初め」を迎えた際には「ホッとしました」と同時に誇らしくもありましたね。  
東京本店/技術設計部  
設計グループ  
原子 央さん

### 北陸新幹線 敦賀駅高架橋工事の技術提案



#### 施工の課題を解決する技術検討 & 提案

敦賀駅高架橋は、大規模工事ゆえ技術的な検討事項は多岐にわたり、線路に近接する施工場所で品質・安全を確保できる橋脚土留めを検討。通常の弾塑性解析に加えて3次元線形弾性FEM解析を同時に行い、2つの解析結果を総合的に判断しながら設計することをお客様に提案…解析のたびに様々な課題が発生しましたが、3カ月をかけて土留め設計を完了し承認されました。作業所と連携して軌道及び土留め壁の変位や切梁軸力の計測結果と解析結果を比較・確認しながら掘削を進め、軌道はほぼ変位せずに無事に掘削作業を完了。3カ月の間…毎日解析と検討 & 毎週お客様と協議を重ねるなど非常に苦労しましたが、技術者としてとても有意義な経験となりました。



大阪本店/技術設計部  
技術グループ  
後藤 尚さん



## トータルマネジメントで信頼を得つつける

社会の公器としての「会社」を管理運営していくために、管理部門がトータルマネジメントで生産活動と連携…効率的な組織運営でお客様からの信頼を得つつけます。

様々なインフラや社会基盤の整備を通じて「強い国土と人々の安全で快適な暮らしを守る」ことを使命とする当社は、調査・計画から設計・施工・アフターサービスまで「ものづくり」に関わる全てのステージで管理部門が協調しながら生産活動と連携。事業計画の立案をはじめ「ヒト・モノ・カネ・情報」の適正な調達・配分などトータルマネジメントで円滑な事業活動を支援しています。また、事業の成果を集計・管理して企業活動全体の質の改善向上に努めるとともに、ステークホルダーの皆様適切に開示…お客様はもとより広く社会から信頼を得つつけることで、企業としての社会的責任を果たしていきます。



#### 質の高い収支計画で会社の健全経営に寄与

現在は、会社全体の資金を管理する財務部に所属。会社運営に不可欠な「お金の出入り」を正確に把握し、最適に利用されるよう「資金管理」を行なっています。短期～長期までの収支計画の立案と資金調達に関わる金融機関等との折衝、取引先の与信管理や新規プロジェクトのリスク評価など業務は多岐に亘り…会社の資金管理を一手に担う業務なのでミスは許されず責任は重大ですが、その分「やりがい」は大きいと感じています。今はまだ手作業に頼る収支管理に多くの時間を割いていますが、今後はシステム化することで「業務効率」を上げ



計画との差異分析や出入金額の検討により多くの労力を集中…さらに質の高い収支計画を立案していきたいと考えています。  
本社/管理本部  
財務部  
山下 明範さん

#### 現場の円滑な生産活動をサポートしたい！

生産事務の職務は多岐に亘りますが、私は事務担当として作業所の管理業務を一手に担い…作業所の開設から関係各所への法定書類の作成・提出、協力会社から届く各月の請求書処理や職員の健康管理など多様な業務に携わっています。とりわけ気を配っているのが『現場の技術職のメンバーが思いっきり力を発揮できる環境づくり』。また、円滑な施工を行うための環境整備や迅速・的確な事務処理、正確な情報と数値の把握に努めながら日々業務を行っています。些細な業務であっても「誰かがやる必要があり必ず先に



繋がるもの」…小さな業務の積み重ねがやりがいや喜びに繋がり、そこから職務の内容が広く濃くなることが多いと感じています。  
東京本店/工事部  
生産事務グループ  
宮本 貴裕さん

当社は、創立以来『最良の作品を世に遺し、社会に貢献する』という経営理念のもと社是を基本姿勢として、お客様のニーズに応える『作品』を提供し続けてきました。そして、お客様満足とともに社会の信頼を得て社会的価値を高める事業活動を実践してきました。繰り返される自然災害の脅威やインフラの老朽化など、多くの社会的課題を抱える近年私たち建設業に求められる機能や価値、果たすべき社会的責任は益々重要性を増してきています。当社におけるCSR推進の目標は、多様なステークホルダーの皆様との対話を深めながら事業活動を通して社会的課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献することにあります。竹中グループCSRビジョンのもと、SDGsの実現に貢献して企業評価を高めていくとともに原点である『企業理念』を社会的使命として一人ひとりが胸に刻み行動指針である『企業行動規範』を実践することで目標を達成していきたいと考えています。

**企業理念**

経営理念 最良の作品を世に遺し、社会に貢献する

社 是 正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし  
勤勉業に従い職責を全うすべし  
研鑽進歩を計り斯道に貢献すべし  
上下和親し共存共栄を期すべし

われらの  
モットー 信用第一に  
よりよい仕事を親切に  
無駄をなくして安全に

**会社方針**

内部統制基本方針

企業行動規範

個人情報保護方針

個人番号及び特定個人情報の適正な取扱いに関する基本方針

安全衛生方針

品質方針

環境方針

**竹中グループCSRビジョン**

私たち竹中グループは、ステークホルダーとの対話を深め、その想いを「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会へつないでいきます。

竹中グループメッセージ **想いをかたちに 未来へつなぐ**

竹中土木コーポレートメッセージ **人と地球の架け橋に**

**企業行動規範**

1. お客様満足とまちづくりを通じた持続可能な社会の実現
2. 法令及び社会規範の遵守
3. 情報の開示及び保護
4. 人権の尊重
5. 働きやすい職場環境の実現
6. 地球環境への貢献
7. 社会への貢献
8. 危機管理の徹底
9. 国際規範の尊重と各国・地域への貢献
10. 実施体制の整備と違反への対応

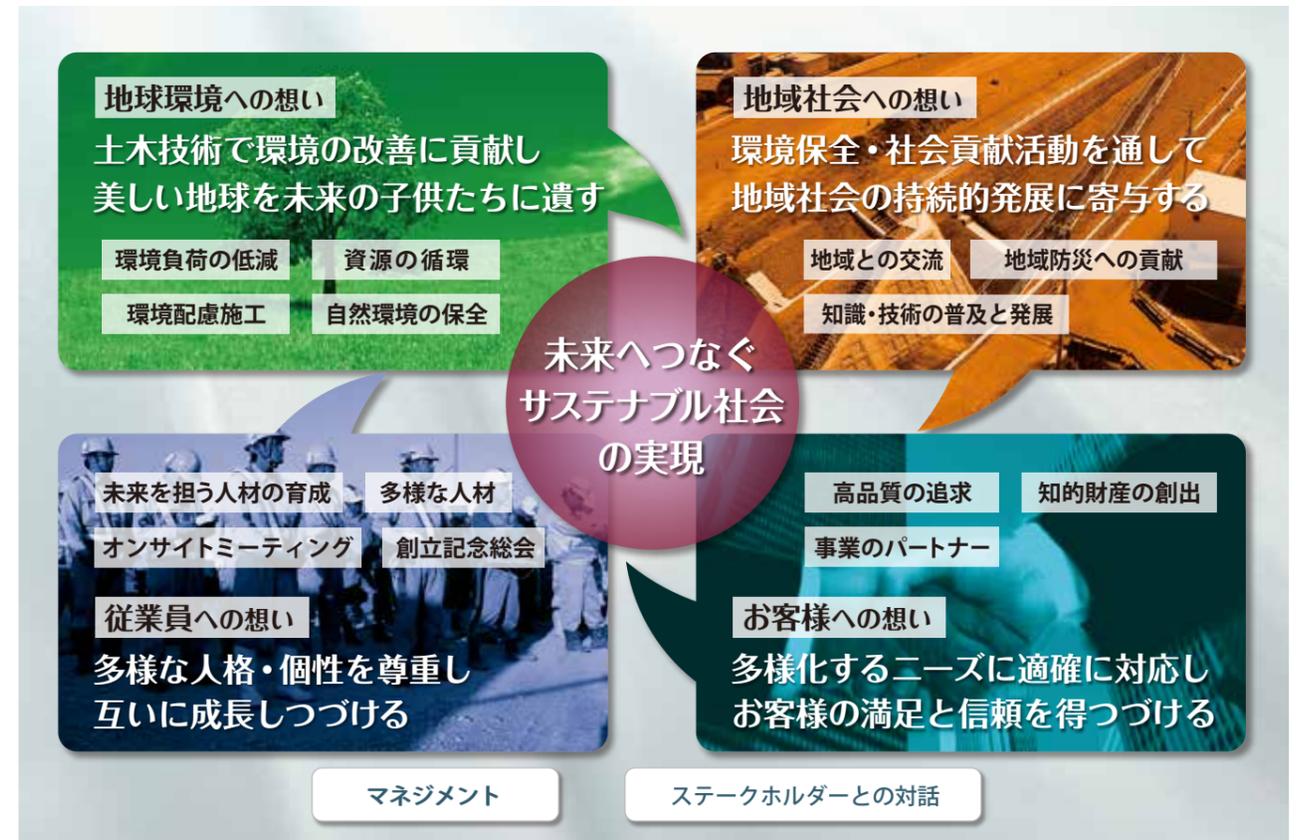
美しい地球を  
未来の子供たちに遺す

地域社会の  
持続的発展に寄与する

お客様の満足と  
信頼を得つづける

多様な人格・個性を尊重し  
互いに成長しつづける

ステークホルダーの皆様とともに…「未来へつなげる」4つの想いと取り組み

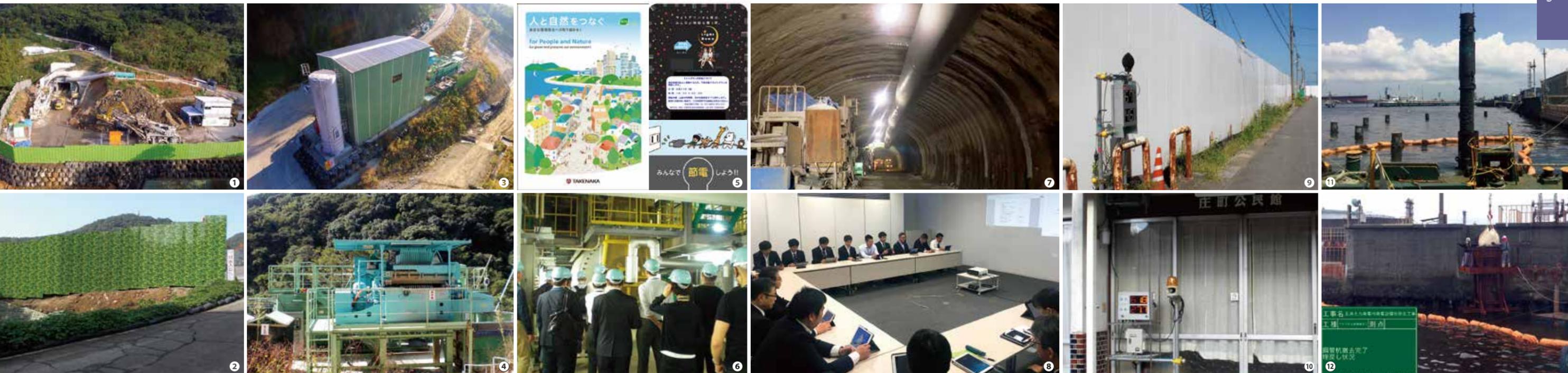


2019年の主な活動計画と実績・事例

活動領域	主な活動計画	主な活動実績・事例
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化を抑制する生産活動の展開</li> <li>オフィス業務における省エネ・省資源の推進</li> <li>生産活動から発生する建設副産物最終処分量の低減</li> <li>建設副産物の3R活動推進</li> <li>営業活動における環境技術の提案推進</li> <li>自然環境に配慮した設計及び施工の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電の利用と照明LED化の推進、「ライトダウン」を実施 (P36)</li> <li>ペーパーレス会議の推進、日常の省エネ・省資源活動の継続 (P36)</li> <li>工事で発生する建設副産物最終処分量の低減とリサイクル率の向上 (P36)</li> <li>自然環境に配慮した防音パネルを設置して工事の騒音を低減 (P36)</li> <li>濁水処理プラントを設置して濁水による河川への影響を抑制 (P36)</li> <li>騒音・振動対策を徹底するとともに騒音・振動の測定情報を地域に公開 (P37)</li> <li>フレキシブル・コンテナバッグの使用で海洋の汚濁防止を徹底 (P37)</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民や行政をはじめ教育機関・NPO・NGOとの連携と協働</li> <li>地域特性によりそった生産活動及び社会貢献活動の推進</li> <li>作業所における「地域防災」への貢献</li> <li>地域の環境美化及び維持に貢献する活動の推進</li> <li>地域への貢献と持続的な発展に寄与する知識の普及と展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の皆さまに工事内容と状況を知らせる工事見学会を開催 (P38)</li> <li>子供たちが未来をイメージして描いた絵を工所用仮囲いに掲示 (P38)</li> <li>地域で開催される各種イベントへの協力と参加 (P38)</li> <li>津波から人命を守る「仮避難場所」を現場内に設置、「避難訓練」を実施 (P39)</li> <li>技術研究所見学会を開催、全国の技術展示会に出展 (P39)</li> <li>小学生に液状化現象の発生メカニズムを学ぶ「出前授業」を実施 (P39)</li> </ul>
お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産活動における協力会社と一体となった高品質の追求</li> <li>知的財産の創出及びお客様への還元</li> <li>お客様の要望に応える最適なソリューションの創出と提供</li> <li>お客様と社会の安全・安心を守る土木技術の革新と開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業所における品質マネジメントシステムの効果的な運用 (P40)</li> <li>「特許出願」並びに「権利取得」技術・工法を創出 (P40)</li> <li>安全で快適なまちづくりをサポートする「土地区画整理事業」への注力 (P41)</li> <li>お客様が目指す「賑わいあふれる「複合拠点型」まちづくり」を推進 (P41)</li> <li>お客様と地域が願う「広域交流型」まちづくりをサポート (P41)</li> </ul>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員のキャリア形成と能力開発の実施及び支援</li> <li>健康で豊かな生活のためのワークライフバランスの推進</li> <li>女性活躍推進をはじめ多様な人材の採用・育成及び活躍促進</li> <li>社員の意見をワークライフバランスや教育機会の拡充に反映</li> <li>毎年全社員が参加する「創立記念総会」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代に即した階層別教育カリキュラムに改善…「メンター制度」を推進 (P42)</li> <li>多様な人材が活躍できるよう「ダイバーシティ・マネジメント」を推進 (P42)</li> <li>「ワークライフバランス」を向上させる従業員支援制度の充実 (P42)</li> <li>経営トップが社員と語らう「オンサイトミーティング」を継続開催 (P43)</li> <li>各種表彰制度で社員のモチベーションアップ&amp;会社の一体感を醸成 (P43)</li> <li>定年再雇用の促進により「経験・知識・技術」を若い技術者へ伝承 (P43)</li> </ul>
マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部統制の継続強化</li> <li>公正な事業慣行及びCSR・コンプライアンス知識・意識の向上</li> <li>災害発生時に備えた社内対応体制の整備と強化の継続</li> <li>法令改正に対応した社内周知と法的リスクの予防</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガバナンス体制の充実で内部統制を継続強化 (P44)</li> <li>社員にコンプライアンスニュースの定期発信、eラーニングの実施 (P44)</li> <li>社外講師によるCSR役員セミナーの実施 (P44)</li> <li>建設業法遵守の徹底、社会保険未加入会社への指導 (P45)</li> <li>BCPIに基づく災害発生時の復旧対応までのシミュレーション訓練の実施 (P45)</li> </ul>

# 美しい地球を未来の子供たちに 遺します

環境方針に基づき環境に配慮した設計や環境負荷を低減する施工、環境技術の提案を行っています。  
また、省資源・省エネルギー、自然との共生、低炭素社会、資源循環への取り組みを推進しています。



①②: 周辺に溶け込む防音性工事用仮囲い ③: 防音パネルで覆われたコンクリート製造施設 ④: 濁水処理プラント ⑤: 環境活動キャンペーン ⑥: 産業廃棄物処理施設見学会  
⑦: トンネル工事の照明にLEDを使用 ⑧: ペーパーレス会議 ⑨⑩: 防音性仮囲い&騒音・振動を測定し地域に開示 ⑪: 水質汚濁防止膜 ⑫: フレキシブル・コンテナバッグで土砂投入

## 環境負荷の低減

### ❖ 「環境月間」活動キャンペーン

竹中グループは国が推進する「環境月間」に合わせて、毎年6月に環境活動キャンペーンを実施。使用電力やCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

### 2019年の主な活動

- 各部門、作業所において「竹中グループ 環境月間メッセージ」の伝達・周知
- 「グループ統一ポスター」・「省エネポスター」の掲示
- 自主的な取り組みとして「ライトダウン」を実施
- 6本支店において産業廃棄物処理施設の見学会を実施
- eラーニング竹中グループ「環境講座」を新入社員に実施

### ❖ トンネル工事における環境への配慮

建設現場では、施工時に発生する騒音や濁水等による環境への負荷を最小限に抑える工夫を行なっています。

熊本市で進める道路トンネルの施工場所は、住宅地と緑豊かな山岳部が隣接する地域です。そのため、施工にあたっては「周辺自然環境との調和」並びに「環境負荷の低減」を図る様々な取り組みを行いました。

周辺への防音対策として…トンネル起点の住宅地側には「蔦柄のシート」を貼った防音性工事用仮囲いを設置。できる限り周辺自然環境に溶け込むよう配慮しました。また、コンクリート製造施設を防音パネルで覆って騒音の外部への影響を低減するとともに「濁水処理プラント」を併設…コンクリート製造時に発生する濁水による河川への影響を抑制しました。

### ❖ 太陽光発電の利用と照明LED化

当社は、地球温暖化防止に向けた取り組みの一環として、全国の事業所・作業所における太陽光発電の利用と照明のLED化を推進しています。

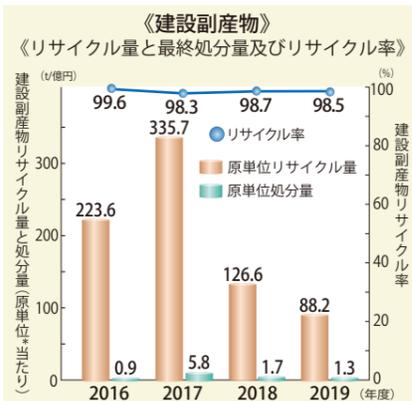
### ❖ 業務効率向上と資源の消費抑制

当社は、2016年から社員へのタブレット端末 (iPad) の配布を開始…社内外を問わず業務効率の向上に活用しています。さらに、環境負荷を低減する取り組みの一環としてタブレット端末を活用した「ペーパーレス会議」を推進。配布資料を削減して省資源に取り組むとともにファイリング業務や保管スペースの削減などで業務効率の向上を目指しています。

## 資源の循環

当社は全国の作業所において、工事に伴い発生する建設副産物の発生抑制と再利用・再資源化を促進し、資源循環型社会の形成を推進しています。

\*原単位  
ある量を比較する場合に、業績(仕事量)の大小に影響されないよう、基準となる単位。当社は「施工高1億円あたり」を採用している。



## 環境に配慮した施工

近年の建設工事においては、施工時に発生する騒音や振動・粉じん等による周辺環境への影響を最小限に抑える施工方法の検討が重要です。

### ❖ 騒音・振動対策と測定情報の公開

福井県で進める北陸新幹線工事では、工事エリアの一部が住宅地に隣接しており、住民から騒音・振動対策が求められました。そこで、通常の防音シートより高性能な高さ3mの仮囲いを設置して住宅地への影響を抑制しました。また、地域住民と発注者との協議に基づき、工事エリアで発生する騒音・振動を測定。リアルタイムで測定値を地域の公民館で開示し、住民の皆さんがいつでも確認できるようにしました。さらに、毎月1回「騒音・振動の測定結果」を取りまとめて地元会長へ提出するなど、地域の皆さんと相互理解を深めながら工事を進めています。



## 自然環境の保全

当社は全国の建設工事において、周辺の河川や海などの自然環境を保全する様々な取り組みを行っています。

### ❖ 海上工事における海洋汚染への配慮

千葉県で進める火力発電所解体工事では、東京湾の海上にある既存の鋼管杭を撤去する工事があります。海上で撤去した鋼管杭の杭跡を土砂で埋め戻す必要がありますが、付近では漁業関係者による海苔の養殖が行われており、埋め戻しの際に土砂を海上にこぼれ落とすことは許されません。

そこで当社は、杭跡を埋め戻す周辺に水質汚濁防止膜を配置するとともに、土砂運搬船からフレキシブル・コンテナバッグを使って運搬・投入を行い、土砂のこぼれ落ちによる海洋の汚濁防止を図りました。

当社はこれからも全国の作業所で、自然環境に配慮する様々な取り組みを実施していきます。



# 地域社会の持続的な発展に寄与します

私たちは地域の皆様との相互理解に努め、良好な関係を構築しながら事業活動を行っています。さらに、地域社会とのコミュニケーションを大切にしながら社会貢献活動を推進しています。



工事見学会…①②：下水道シールド工事 ③④：北陸新幹線工事 ⑤：現場仮囲いに子供たちが描いた「未来の絵」を掲示 ⑥：地域の例大祭で神輿を担ぐ  
⑦：現場内に津波仮避難場所を設置し「避難訓練」を実施 ⑧⑨：小学6年生に出前授業 ⑩：ハイウェイテクノフェア2019 ⑪：「土木の日」…技術研究所見学会

## 地域との交流

### ❖ 社会貢献活動の推進・支援

竹中グループは、全国各地の事業所・作業所において地域コミュニティとの交流を深め、良好な関係を維持・発展させていきたいと考えています。

地域住民との相互理解に努め環境保全と地域の発展に寄与するため、従業員が行う社会貢献活動を積極的に支援するとともに、地域・行政をはじめ教育機関やコミュニティと密接に関わっているNPO・NGOとの連携・協働にも努めています。

### ❖ 工事見学会の開催

当社は、全国各地で進める建設工事において、ステークホルダーの皆様との交流を通じて、土木工事への理解を深めただく多様な活動を行っています。

神奈川県下水道整備作業所では、発注者と協力して近隣住民や市議員ら70名を現場に招待…工事の目的や規模を体感してもらうための見学会を開催しました。

参加した方からは、「これだけ大きな規模の施設が地下にあるとは驚いた」「深い地下で大きな下水道管が造られていることにびっくり!」といった声が寄せられました。

福井県で進める北陸新幹線工事においては、発注者と協力して地元中学生115名と先生8名を現場に招いて見学会を開催。生徒達からは、「とても大きな規模で大変な工事なんだと感じた」「新幹線が開通すれば福井から大阪まで1時間以内で行けることが印象に残った」などの感想が寄せられ、先生方からは感謝の言葉をいただきました。



### ❖ 工所用仮囲いに子供たちが描いた「未来の絵」を掲示

大阪府で進める宅地造成の現場は、周辺を住宅地に囲まれた市街地。現場出入口の向かいには地域の子供たちが通う幼稚園があります。そのため作業所では、工事開始当初から子供たちと交流…園児の方々に防犯ブザーを提供したり、七夕の時期には現場で伐採した竹に子供たちの願い事を書いた短冊を飾ったりして親睦を深めてきました。

7月には、子供たちに未来をイメージした絵を描いてもらい、工所用仮囲いに掲示。お披露目式の際は子供達から歓声があがり…殺風景な工事現場の仮囲いをにわかにも明るくする園児たちの天真爛漫な作品は、道行く人々を笑顔にしています。

### ❖ 地域イベントへの参加

当社は、地域で開催される様々なイベントへの参加を通じて地域コミュニティと交流…神奈川県で進める高速道路インターチェンジ工事においては、地域で開催される例大祭(作物の豊作を祝う祭り)に参加。三つの地区のうち二地区の神輿を職員全員で担ぎ、地域の方々との親睦を深めました。

## 地域防災への貢献

東日本大震災以降「国土強靱化」が求められ、なかでも「津波対策」は大きな関心を集めています。また、近年は大型台風や豪雨による河川の氾濫に伴う家屋の流出、道路・鉄道網の寸断等の被害が頻発…『防災・減災』への意識は年を追うごとに高まり「暮らしを守る強い国土」が求められています。

### ❖ 津波から人命を守る「仮避難場所」を現場内に設置

徳島市で進める高速自動車道工事の施工場所は太平洋に面し、地震発生時には津波の被害が心配される地域。そこで当社は、現場内に地域の安全を守る「津波仮避難場所」を提案…発注者から了解を得て設置しました。

高速自動車道完成時には、正式な津波避難場所が設置されますが…それまでの間、地域住民の命を守る仮避難場所の盛土高は13m。貯蔵庫には非常食のカンパンや飲料水、非常用仮設トイレ等が貯蔵がされています。11月には地域住民の皆様約90名を招いて「避難訓練」を実施。避難ルートを認識して頂きながらコミュニケーションを図りました。



## 知識・技術の普及と発展

竹中グループは、作品や技術の公開を通して「ものづくりの精神」や知識・技術の普及と発展に寄与したいと考えています。11月18日の「土木の日」に開催される竹中技術研究所見学会、小・中学生を対象としたキャリアガイダンスや出前授業、市民参加による現場見学会の開催などで、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを推進しています。

### ❖ 地域の小学生に「出前授業」

大阪本店では地域の小学6年生を対象に地震や液状化現象の発生メカニズムを学ぶ「出前授業」を実施。子供たちからは、「なぜマップピンが浮いてくるの?」等の質問が寄せられ…地震と液状化の関係を知ってもらうとともに「建設業で働く想い」を伝えることができました。また後日、校長先生からの感謝状とともに子供たちの「手書きの感想文」が届きました。

### ❖ 全国各地で展示会に出展

防災や環境問題の解決に役立つ技術・活動を知っていただくとともに、ステークホルダーの皆様からの意見を反映した技術開発を目指して、全国各地で展示会に出展しています。

#### ● 出展した主な展示会

- 6月/仙 台 EE東北'19
- 10月/東 京 ハイウェイテクノフェア2019
- 10月/福 岡 九州建設技術フォーラム2019
- 10月/名古屋 建設技術フェア2019 in中部
- 10月/大 阪 建設技術展2019近畿
- 11月/北海道 ビジネスEXPO
- 11月/広 島 建設技術フォーラム2019 in広島



高度化・多様化するお客様の課題・ニーズに応える最良のソリューションを提供…  
『高品質で魅力的な作品の創造』を継続することでお客様の満足と信頼を得つづけます。



①: トンネル切羽の掘削作業 ②: 端末に映し出される画像 ③: 切羽挙動監視システムの概要 ④⑤⑥: 土地区画整理後の松原市天美東地区 ⑦: 第二京阪道路と国道170号の交差点に隣接する寝屋川小路地区 ⑧: 造成工事施工の様子 ⑨: まちのシンボルとなるGLP大型物流倉庫が完成

日本GLPは、賃貸型物流施設に特化した不動産でデベロッパーとして昨年創業10周年を迎えることができました。この間、開発・運営施設は2019年末で120棟となり、日本の賃貸型物流施設マーケットにおいて最大のシェアを占めています。寝屋川小路地区は大阪北部において主要幹線道路が交差し、市街地にも近接していることから、物流施設として非常に優れた立地であり、弊社も当初から注目していました。ただ、土地区画整理事業で私たちが最も頭を悩ませる問題が、地権者の合意形成の状況が見えずらく、スケジュール遅延などの事業リスクが把握しづらいことです。GLP寝屋川が立地した小路地区においては、一括業務代行者である御社から事業リスクを明確にご説明頂き、問題が生じた際には、対応に尽力いただいたことで事業を円滑に進めることができ、おかげさまでリーシング活動



は順調に推移し、着工前に一棟での賃貸仮契約を締結、無事2018年4月の竣工を迎えることができました。今後も御社とのパートナーシップを継続しながら高品質な物流インフラを構築していきたいと思っております。  
日本GLP株式会社 執行役員  
投資開発本部長 兼 投資開発部長  
塩田 徳隆さま

## 高品質の追求

当社は、経営理念に『最良の作品を世に遺し、社会に貢献する』を掲げ、常に高品質を追求しています。お客様の抱える課題やニーズに最良のソリューションで応えるために、プロジェクトの調査・計画から設計・施工・アフターサービスまでを一貫した流れとして、ISO9001に基づく『品質マネジメントシステム』を運用しています。

また、品質方針を定めプロジェクトの全てのステージで各部門が徹底した品質管理と継続的改善を図るなどトータルエンジニアリングでお客様の満足と信頼の継続を目指しています。

**品質方針**

1. 「顧客満足の向上」を目指して、品質マネジメントシステムを構築し、実行し、維持し、継続的改善を行う。
2. 品質マネジメントシステムの効果的運用により、顧客のニーズと期待及び要求事項への適合を図る。
3. 品質方針を実現するため年度ごとに品質目標を設定し、すべての部門と階層に展開して、その達成を目指す。

プロジェクトを具現化するために各部門と連携しながら創造力を駆使…詳細な設計プランを練り上げる

- 耐久性・更新性の検討
- 周辺環境の検討
- 基本設計
- 実施設計・詳細設計
- 耐震・免震・制震構造設計

最適なスタッフで情報を収集・分析  
お客さまの要求を満足させる  
最適なプランを提案

- 立地調査・評価
- 市場調査・分析
- デューデリジェンス調査
- 用地の斡旋・選定
- 事業プランの提案
- 土地利用計画
- コンピュータシミュレーション



## 知的財産の創出

当社は、特許権や商標権など『知的財産権』の創出に力を注ぎ、その活用にも積極的に取り組んでいます。竹中技術研究所を中心に、様々な分野で行われる研究開発から設計・施工までを対象とし、これら『知的財産権』を活用することによって当社の独自優位性を長期的に維持することが可能となります。

### 近年「特許出願」「権利取得」した技術

#### ・Face Condition Viewer「切羽挙動監視システム」

山岳トンネルの掘削面での岩石落下や崩落の兆候をレーザーで捉え、リアルタイムで可視化して警報発信する技術。神戸大学他と共同開発した本技術は、2019年度の官民研究開発投資拡大プログラム「PRISM」に選出されました。

「品質・コスト・工期・安全・環境」面で課題を克服する施工体制を組織…お客様を満足させる「作品」をつくる

- 省力化・省人化の採用
- 工程管理・工期の短縮
- 安全管理の徹底
- 建設公害の防止
- 作業環境の整備
- 高精度で耐久性の高い施工
- コンクリートの高度な品質管理
- 全工事の自主検査
- 周辺環境への配慮・保全

作品を通じてサステナブルな社会の実現につなげる

- 定期点検
- 災害時対応
- 補修・更新・リニューアル提案

### 2019年に「特許出願」「権利取得」した主な技術

出願済み特許	特許権取得
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地中構造物の液化化対策構造</li> <li>● コンクリート構造物の解体方法</li> <li>● 斜め地盤改良施工機及び同施工機を用いた斜め地盤改良施工</li> <li>● 透過型地盤性状測定装置</li> <li>● 地盤改良体及び埋設物の測定装置、地盤改良体の造成装置及び造成方法</li> <li>● 掘削位置計測システム及びロッド継手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 無拡幅 AGF 工法に用いる管引き抜き用治具</li> <li>● 重金属不溶化処理組成物及び重金属汚染土壌の修復方法</li> <li>● 貯留浄化システム</li> <li>● 植物保護材及び植物保護システム</li> <li>● 深層混合処理工法におけるW/Cの設定方法及びその装置</li> </ul>

## 事業のパートナー

### ❖ 「安全」で「快適」なまちづくりをサポート

かつては、都市部の人口集中に対応するために郊外に新市街地を形成してきた「土地区画整理事業」ですが、少子高齢化の進展に伴いその目的を変えつつあります。近年の「土地区画整理事業」は、市街地が抱える「都市機能の老朽化・陳腐化」や「防災性・安全性の確保」といった課題や、地方都市における「未利用地の増加」、「幹線道路沿道の無秩序な開発の懸念」等々…地域によって異なる様々な課題を解決する最も有効な手段となっています。土地区画整理事業の「一括業務代行方式」に豊富な実績を有する当社は、お客様や地域が抱える様々な課題を解決する最良のソリューションを提供。まちづくりの全てのステージで竹中グループ各社が緊密に連携し、『人々が幸せと喜びを感じながら安心して暮らせるまちづくり』をサポートします。

### ❖ 賑わいあふれる持続可能な「複合拠点型」まちづくり

大阪市や堺市と隣接する松原市天美東地区は、阪神高速道路大和川線・都市計画道路堺松原線や大阪河内長野線の沿道に接する交通利便性に優れた地域。2014年から事業協力者として「土地区画整理事業」に携わった当社は、地区計画の方針とする『健全で賑わいある市街地を形成し、広域交通網を活用した商業・業務等が複合的に立地する魅力ある都市拠点の創出』に向けてお客様と綿密に協議。区画道路や公園・緑地など「公共施設の整備された秩序ある市街地」と「大規模商業施設を核とする地域拠点」を目指したまちづくりを提案・推進

しました。また、支障移転家屋の換地をスムーズに行うため施行地区外の4カ所を追加編入し、そこへ「飛び換地」を行うという稀な手法を駆使して事業の円滑化を図りました。お客様から好評をいただいた土地区画整理事業は、2019年7月に滞りなく組合を解散。現在は、竹中工務店による大規模商業施設の建設工事が最盛期を迎えています。

### ❖ 人とモノが行き交う「広域交流型」まちづくり

大阪や京都へのアクセスの良さからベッドタウンとして発展してきた寝屋川市。その南東部郊外に位置する「小路地区」はほとんどが農地でしたが、2010年3月の第二京阪道路全面開通により、「沿道の土地のみが開発され、その奥が未利用のまま残される」といった無秩序な開発が危惧されました。お客様が土地区画整理事業の目標に掲げた「幹線道路交差点部に位置する交通利便性を活かした広域的な交流・物流の促進を図り、魅力と活力あふれるまちづくりを目指す」と『地区内まちづくりの区画道路及び公園等を整備することにより、健全な市街地の形成を図りながら自然環境との共生を図る』の実現に向けて、当社からは『賑わいと活気を生む商業施設の整備』、『まちの価値向上を目指した道路ネットワークの強化』、『豊かで潤いのある公園緑地の整備』、『まちの顔にふさわしい大型物流拠点施設の整備』等を提案…2013年から業務代行者として「新たなまちづくり」をサポートしました。組合設立以降も、様々な課題解決に全社を挙げて取り組んだ結果…「提案内容を見事実現した」としてお客様から満足いただき、2019年3月に組合を解散しました。

# 多様な人格・個性を尊重し互いに成長しつづけます

当社は、人権はもとより多様な人格・個性が尊重される職場づくりを行うとともに安全・健康にも配慮…誰もが安心して働ける職場環境を確保することで、従業員とともに持続的な成長を実現します。



①②③: 年齢の近い先輩社員が指導する「新入社員現場研修」の様子 ④: キャリア採用の技術者が現場の即戦力に… ⑤: 外国籍のグローバル社員が活躍 ⑥⑦: 女性管理職が活躍 ⑧: 総ての従業員が参加する「創立記念総会」 ⑨: 経営トップと社員が語るオンラインミーティング ⑩: 定年嘱託のベテランが「知識・技術」を次世代へと継承

## 未来を担う人材の育成

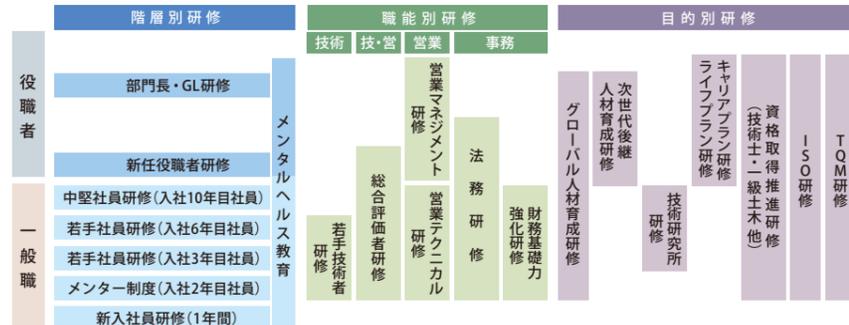
当社は、「自ら考え行動できる人材が真のプロフェッショナルとして時代に適合した新たな価値を創出する」という考えのもと、仕事を通じた人材育成を重視しています。

1年間に及ぶ「新入社員研修」をはじめ、若手社員や役職者のスキルアップを図る「階層別研修」、技術系から事務系社員まで幅広く対応する「職能別研修」、グローバル人材の育成や技術士等の資格取得を推進する「目的別研修」など、社員一人ひとりのキャリア形成を支援する継続的な人材育成・教育に力を注いでいます。

### ❖ 「メンター制度」を推進

他部署の先輩社員がメンター（指導者・助言者）となって、入社2年目社員をサポートする制度を導入。多様な価値観を醸成しながら将来のキャリア形成を支援するとともに、他部署との連携・ネットワークにより組織の活性化を図ります。

### ❖ 従業員育成・教育体系



## 多様な人材

当社は、性別・国籍・年齢などにかかわらず、多様な人材の誰もが働きやすい職場環境の構築を目指して、ダイバーシティ・マネジメントを推進しています。

増えつづける女性技術者を含む新卒採用はもとより、即戦力として期待されるキャリア採用を推進して有為な人材を確保。また、定年再雇用の促進により経験者が持つ「知識・技術の伝承」と若い技術者のスキルアップ等にも力を注いでいます。さらに、女性従業員の就業継続とキャリアサポートに焦点を当てたダイアログや「女性ならではの意見を取り入れた職場環境改善に取り組むなど」女性活躍推進を加速させています。当社は、今後もダイバーシティの意識醸成を図りながら、多様な社員一人ひとりがより働きやすい職場環境を実現する施策を推進していきます。

## オンサイトミーティング

当社は「企業の一番の財産は従業員」と捉え、経営トップが事業所や作業所に向かい社員とフェイスtoフェイスで懇談する『オンサイトミーティング』を継続して行っています。2007年からの開催数は101回、参加した社員は延べ867名。毎回8～10名の若手・中堅社員が参加…社長からは「経営層の想いと考え」「経営環境及び課題」など、社員からは、職場環境の改善など「会社への要望」や「仕事に対する考え方と将来の夢」などについて、それぞれ意見が交わされます。さらに、ミーティングの内容は議事録を作成して全社員で認識を共有。時代の潮流を反映した意見や考えなど『社員の想い』を、ワークライフバランスの充実や教育機会の拡充等にフィードバックすることで「企業の一体感」を醸成しています。

## 創立記念総会の開催

当社は毎年、全国の本支店で創立記念総会を開催…営業や生産部門をはじめ技術提案や技術開発などの各業務と環境社会貢献などにおいて優良な成績を修めたグループ、並びに永年勤続社員を表彰しています。



## 仲間と苦難を克服するのが「土木の面白さ」

私が入社した当時は、100名前後の大量採用でしたが、オイルショックの影響で翌年から新卒採用が極端に少なくなり…入社して10年ほどは、どこの現場へ行っても後輩がいないので「一番下っ端」でした(笑)。そんな状況が暫く続きましたが、仕事に没頭していたので不安など覚えず「土木の仕事」に誇りを持っていました。辞めたいと思ったことも全くありませんでした。私たちの仕事は、全国各地で発注者の要望に応えながら地元の方々に喜んで頂けるモノを安全に造る…その総てが単品生産ですから同じ条件の仕事は二度とありません。現場は必ず終わり働く仲間も変わるので、悩みがあっても「気分を新たに」次の仕事と向き合うことが大切です。思い返しても「苦労した現場」ほどやりがいや喜びが大きいもの。トラブル・苦難から逃げずに正面から向き合い、



仲間と協力して乗り越えていくのが「土木の醍醐味」。若い人には、「燃え盛る炎の中心に飛び込む勇気」を持って欲しいですね。土木は「面白い仕事」ですから…。  
神戸地区総合所長  
梶原 嘉範さん

当社は企業理念のもとで「品質経営」を実践…お客様の満足や社会からの信頼を得るとともに企業としての社会的価値を高めながら社会的責任を果たしていきます。

## 組織統治

### 経営の質の向上と迅速・的確な意思決定を行うガバナンスの充実

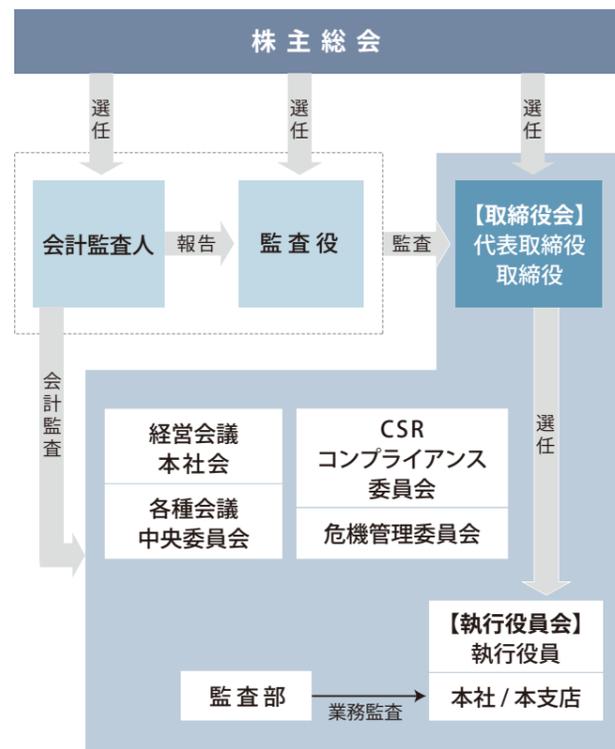
お客様や広く社会から信頼を得て、企業の社会的価値を高めるという考えのもと、企業活動全体の質の改善向上と経営の倫理性・透明性を高めるために、ガバナンス体制を構築し適正な運営に取り組んでいます。

当社は、経営トップが率先垂範して企業倫理の確立と教育・啓蒙を図っています。社員一人ひとりが、企業行動規範を徹底実践することで、法令及びその他の社会規範を遵守…公正・透明・自由な競争並びに適正な取引を行うことで社会的責任を果たしていきます。

また、ステークホルダーの皆様から信頼され社会的責任を果たしていくために「CSR・コンプライアンス体制」を構築。お客様の満足と社会からの信用を得ながら、良識ある企業活動を実践しています。

内部統制については「内部統制基本方針」に基づき、コンプライアンスを含むCSR活動の推進やリスク事象発生時の危機回避と軽減、及び平時における危機管理活動の推進など、全社的な体制整備や啓発に取り組んでいます。

### コーポレート・ガバナンス体制図



### CSR・コンプライアンス体制を構築し啓発活動を行っています

CSR及びコンプライアンスを維持・向上させる体制として、社長をトップとする「CSR・コンプライアンス委員会」を設置し、企業行動規範及び関係法令の遵守を推進しています。

また、CSR・コンプライアンスを推進する体制として本社に「CSR・コンプライアンス推進責任者」、各本支店に「CSR・コンプライアンスリーダー」を選任し、当社並びに竹中グループの一員としての教育・啓発の推進役としています。

具体的な取り組みとしては、竹中グループ全体で「eラーニング」を利用したCSR・コンプライアンス教育の実施や「CSR・コンプライアンスニュース」の配信を行うほか、毎年11月に実施する「竹中グループCSR・コンプライアンス月間」において、社外講師による「CSR役員セミナー」の開催や職場における「CSR・コンプライアンスミーティング」を実施。

こうした活動を繰り返し行うことで、コンプライアンスを含むCSRに関する知識・意識の向上を図っています。



CSR役員セミナー

### コンプライアンス・ヘルプライン

コンプライアンス経営への取り組みを強化するために、コンプライアンス違反等に関する通報を適切に処理し、自浄作用を高めるとともに、外部への通報による風評リスク等を減少させることに資するため、従業員用としてコンプライアンス・ヘルプライン及び竹中グループ・コンプライアンスヘルプラインを、また、社外の協力会社関係者用としてパートナーズ・ネットを設置しています。

## 公正な事業慣行

### 関係法令の改正内容の周知徹底と建設法令遵守への継続した取り組み

「法令順守」に基づいた適切な企業活動を実践するために、関係する様々な法令などの改正及び運用動向の社内への周知・徹底に努めています。会社経営等にかかわる法改正はもとより建設業や労働安全・環境などの実務的な法令の改正に際して、適切かつ確実な対応を図っています。

毎年、国の定める「建設業取引適正化月間」にあわせて、作業所における「建設業法の順守」「社会保険加入状況の確認やフォローの確実な実施について、期間を設けてあらためて確認を行うなど、全社を挙げて適切に取り組むよう周知徹底しています。

### 反社会勢力への対応

全国の都道府県において「暴力団排除条例」が施行され、暴力団を取り巻く法整備の状況や社会における反社会勢力に対する意識が大きく変化しています。

そうした中で当社は従来より、全ての取引会社との間において「暴力団排除に関する契約」を締結するとともに、取引会社や関係各所と幅広く情報を共有し、全社的に水平展開を図りながら「反社会勢力との関係遮断」を徹底しています。

## 安心と信頼

### ステークホルダーの皆様からの評価《2019年の主な評価・表彰》

工事表彰	感謝状	(独)都市再生機構 宮城震災復興支援本部	・石巻市新門脇地区整地道路その他工事
	感謝状	中日本高速道路(株)東京支社	・中部横断道 新清水JCT下部工事
	感謝状	西日本高速道路(株)関西支社	・新名神高速 有野川西下部工事
	感謝状	国土交通省東北地方整備局長	・国土交通事業に貢献(成瀬ダムトクラ地区整備工事)
	感謝状	国土交通省関東地方整備局長	・事業の推進と技術の向上に貢献(城山トンネル工事)
	感謝状	廣野ゴルフ倶楽部	・廣野ゴルフ倶楽部コース改修工事
安全	表彰状	中日本高速道路(株)東京支社工事安全協議会	・第三者の安全確保(新東名高速 葛葉川橋(下部工)工事)
	表彰状	国土交通省関東地方整備局長	・幾多の工事を無事故で完遂
	感謝状	西日本高速道路(株)関西支社・中国支社	・豪雨災害復旧の支援(新名神高速 有野川西下部工事)
地域貢献	感謝状	農林水産省近畿農政局長	・地元小学生に推進工事の課外授業を実施(六箇井(七瀬排水路)第4工区)
	感謝状	東京消防庁 臨港消防署長	・火災被害拡大阻止(中防内5号線橋りょう他整備工事)
	感謝状	京田辺市立田辺小学校	・地元小学生に地震や液状化被害についての課外授業を実施
	感謝状	石巻市長	・復興まちづくりの公園に健康器具を寄贈(石巻市新門脇地区整地道路その他工事)
	感謝状	東日本高速道路(株)関東支社	・桜並木へのライトアップ(公田笠間バイパス工事)

## 危機管理

### BCPに基づく災害等緊急時のリスク管理

竹中グループは、首都直下地震や南海トラフ地震など“自然災害”を想定した事業継続計画『BCP』を策定。各本支店に設置する災害対策本部を中核に従業員・家族の安否確認、作業所・自社施設に加え当社施工施設・公共施設の被災状況確認及び復旧対応等を早く全社的に行う体制を整えています。

2019年11月13日には、竹中グループ18社・約12,000人が参加して「合同震災訓練」を実施。巨大地震発生を想定した「安否確認」では各自が自主的にポータル「掲示板」の指示に従って行う報告訓練。さらに夜間の対策本部設置や作業所における津波避難、衛星携帯電話を使った通信とi-Padを使ったTV会議、非常電源の確保やグループ連携等より実践的な訓練を行い、例年にも増してグレードアップした訓練になりました。今後も、厳しい条件を想定した訓練を継続的に実施していくことで『BCP』をさらにスパイラルアップし、大規模災害時の具体的な行動基準を周知・徹底していきます。



竹中グループ合同震災訓練

将来に亘って健全な事業活動を継続するため、積極的にステークホルダーとの対話を行っています。そこで議論された意見・課題等は全社で共有し、様々な事業分野へフィードバックしています。



インターンシップ…①:地下通路工事 ②③:高速道路工事 ④:造成工事 ⑤:事業主研修会 ⑥:合同安全品質環境パトロール&「労働災害防止対策」の小冊子 ⑦:安全総大会

### 未来を担う学生への支援と交流

当社は「企業の一番の財産は従業員」と考え、建設業の未来を担う学生たちへの支援と交流に力を注いでいます

#### ❖ インターンシップ(就業体験)

2018年秋～2019年春に当社のインターンシップに参加した学生は、長期・短期合わせて全国で約90名。建設業の最前線で行われる施工管理業務やグループワークを体験しながら社員と交流…土木への理解を深めてもらうとともに、学生達の意見や想いを企業として共有。将来を担う若手のキャリア形成支援や人材育成力の向上に役立てています。

#### ❖ 作業所・研究所見学会

作業所見学会は、通常の土木現場のみならず、普段はなかなか体験できない海上で行われる地盤改良工事の現場でも実施しました。また、技術研究所見学会は大学のほか工業高等専門学校での授業の一環としても開催しています。

当社は、学生の建設業への理解やキャリア形成に資する場として…また、企業が果たすべき社会的責任の一環として作業所見学会などを継続していきます。

### 『労働災害ゼロ』を目指して

当社は、労働災害につながる潜在的危険要因を排除し、災害発生リスクの低減に努めています。特に「墜落災害」「ヒューマンエラー」「高齢者による災害」の防止活動に重点をおき、安全パトロールや垂れ幕の掲示、冊子の配布等を行って潜在的危険を事前に摘み取る活動を展開しています。

### 協力会社とのパートナーシップ 絆を深める「竹栄会活動」

「竹栄会」は、全国約170の協力会社で組織され、技術力の強化と生産性の向上、並びに労働災害防止活動を積極的に推進し、会員相互の資質向上と体質の強化を図って共存共栄の実をあげ、会社の発展に寄与する事を目的としています。「生産性向上事業」をはじめ「労働災害防止事業」や「労災互助事業」など活動内容は多岐にわたり、当社は良きパートナーとして多方面における協力・支援体制をとっています。

#### ❖ 生産性向上事業

「建設キャリアアップシステム」をはじめ働き方改革、担い手の確保・育成に関する情報を提供しています。また、厚生労働省が進める新しい取り組みや建設業法等の法令改正等の動きに対応するために「事業主研修」の開催を継続しています。

#### ❖ 労働災害防止事業

安全衛生管理者や職長への研修を支援するとともに、「VR事故体験安全教育」の実施体験教育を支援。また、合同で安全品質環境パトロールも実施しました。

### 全国7地区で安全総大会を開催

毎年7月1日～7日までの全国安全週間に先立ち、全国7地区の竹中土木安全衛生管理委員会と竹栄会とが共催して「安全総大会」を開催。安全衛生に秀でた作業所・協力会社及び技能労働者を表彰…安全意識の向上を図るとともに相互の発展に寄与するパートナーシップを強化しています。

竹中グループの「道路舗装スペシャリスト」として豊富な経験と実績をもつ竹中道路は生活に欠かせない「道」の整備や維持管理、新技術の開発などお客様の信頼を得つづけています。



⑧:インターンシップ IH式舗装撤去 ⑨:関西国際空港連絡橋 ⑩:室蘭白鳥大橋 ⑪:遮熱性舗装(調布市) ⑫:ハニカムグリーン(陸前高田市) ⑬:松山自動車道舗装補修工事で「品質管理優良賞」

### 建設業の魅力を伝えるイベントを開催

竹中道路では「建設業について深く知ってもらおう活動」の一環として、本支店・作業所・合材工場の各地において、建設業を志す学生を対象とするインターンシップや現場見学会等を実施。「道路の役割と重要性」や「道路工事の魅力とやりがい」等を理解してもらう様々なイベントを開催しています。参加した学生からは「現場で働く職員のスピリッツや道路工事の雰囲気を感じることができ興奮した」等の感想が寄せられ好評を頂きました。今後も内容をブラッシュアップしながら、建設業及び当社の魅力を伝えていきます。



### 「働き方改革」で魅力ある会社へ

竹中道路は、長時間労働縮減や休暇取得向上によるワークライフバランスの改善に取り組み、誰もが働きやすい職場環境づくりを推進しながら「魅力ある道路会社」として持続的に発展していきたいと考えています。

その一環として、東京都内の舗装工事・2作業所において「週休2日制モデル工事」を実施…「4週8閉所」以上を行なったとして、国土交通省より「履行実績取組証」を受領しました。雨天の施工中止が多い舗装工事における「完全週休2日」は高いハードルですが、魅力ある産業として将来に亘って発展していくために、今後も継続して取り組んでいきます。

### 「保有技術」の展開

#### ❖ IH式舗装撤去

「IH式舗装撤去」は、鋼床版とアスファルト舗装の接着面を加熱して表層・基層を一体で剥離する画期的な技術です。2018年9月の台風21号で破損した関西国際空港連絡橋の修復工事において「1号機」が仮設アスファルト舗装の撤去工事を施工。北海道の室蘭白鳥大橋においても疲労した鋼床版の補修を「2号機」で施工しました。

#### ❖ 遮熱性舗装…『爽やかコート』

路面温度の上昇を低減させる遮熱性舗装は、2020年オリンピック・パラリンピック開催時のアスリート・観客への暑熱対策に有効とされ、現在、東京都調布市の「味の素スタジアム」前にて施工中。歩道にも遮熱性インターロッキングを施工して夏のヒートアイランド対策に努めています。

#### ❖ ハニカムグリーン

路面緑化技術「ハニカムグリーン」が、岩手県陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園の遊歩道で採用されました。美観に優れ利用者にも優しい芝生舗装「ハニカムグリーン」は、都市部のヒートアイランド対策としても期待されています。

### お客様満足の向上

愛媛県で施工を行う「松山自動車道舗装補修工事」において、品質管理の重要性を作業所の全員が深く認識し、「積極的に現場の品質向上に努めた」として、西日本高速道路(株)より「品質管理優良賞」を受領しました。



人と地球の架け橋に

 竹中土木

<https://www.takenaka-doboku.co.jp/>

**R200**

高品質・高耐久・高機能

**VEGETABLE  
OIL INK**

植物性インキを使用しています。